

目 次

I.	教 育 課 程 に つ い て	2
	カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー	
II.	単 位	6
III.	成 績 評 価 基 準	6
IV.	服飾学部服飾表現学科カリキュラム表	7
V.	履 修 の 方 法	13
VI.	学 芸 員 に つ い て	17
VII.	授 業 計 画	25
VIII.	ゼ ミ ナ ー ル	59

I. 教育課程について

(2022 年度生用)

本学の教育課程は、学則第2条の目的にそって、構成されています。

教育課程(学則第25条)に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧 7 頁の服飾学部服飾表現学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

カリキュラムポリシー(教育方針)

本学科の教育の使命と目的を効果的に実現するための教育組織として、1年次は一部服飾学科と共通のものも含めた学科独自の初年次教育課程を経て、2年次後期、3、4年次で4つの専攻に分かれた専門教育課程を設けています。初年次教育課程では、教養科目によって一般的教養を養い、服飾関係科目によって感性、技術力、表現力を育成します。その基礎の上に立って、専門教育課程で、創造力・表現力をもった服飾表現に関する専門職業人を養成することを目指しています。

教養科目は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・総合・国際関係・外国語の科目を多数開講し、外国語は8単位以上、それ以外の科目で26単位以上の履修を要求しています。また1年次には初年次科目の「学習基礎」を必修として、大学で4年間学ぶためのスキルを修得させています。外国語については3、4年次での受講も可能にし、服飾表現業界での必要性に対応しています。

初年次教育課程では、服飾関係科目、服飾経済科目と服飾表現科目の共通必修科目と専門選択科目を設けています。服飾表現科目の共通必修科目の中核科目として服飾表現概論、プレゼンテーション論、グラフィックデザインⅠ、写真表現、身体表現Ⅰがあり、これらを全員に履修を義務付け、服飾表現に関する基礎的な技術や表現方法を全学生が修得することとしています。これが本学科の初年次教育課程の特徴です。

2年次前期のオムニバス形式の「服飾表現演習」での学修をもとに、2年次後期の専門教育課程では、「衣装表現」、「スタイリング」、「ビジュアルマーチャンダイジング」、「メディア表現(映像・ショープロデュース)」の4つの専攻に分かれます。専攻独自の必修科目は19単位を設定しています。各専攻の教育目的と目標を達成するために必要な必修科目を専攻ごとに3科目設定しています。初年次教育課程の科目、専門教育課程での選択科目と合わせて専門教育課程で専攻の必修科目を履修することによって、各専攻の目指す専門職業分野の人材育成を可能とする方針のもとにカリキュラムを編成しています。

本学科の履修科目の単位内訳は次の表の通りです。

履修科目単位内訳表

(2022年度生用)

杉野服飾大学 服飾学部 服飾表現学科

授業科目の区分と履修方法			修 得 単 位 数
専 門 科 目	必 修		59
	選択必修		10
	選 択		21
専門科目合計			90 単位
教 養 科 目	初 年 次	必 修	10
	一 般 体 育 国際関係	選 択	16
	外 国 語	選択必修	8
教養科目合計			34 単位
総 合 計			124 単位

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では下記の表に掲げる専門課程の専攻別の教育目的に従って、目標の欄に掲げている服飾表現関係の専門的職業で活躍できる人材の育成を目標としています。

1年間の初年次教育課程の教育を受けますが、その間に一部服飾学科と共通のものも含めた学科独自の内容の19単位を必修科目として履修します。これによって、服飾を物として成立させる技術や服飾経済に関する知識を得た上で、視覚的な感性や表現力を持った服飾表現の専門教育に備えての基礎的な能力を培うこととしています。

2年次後半から4年次までの専門教育課程では、専攻ごとに専門必修科目19単位の履修を求めています。さらに専攻ごとに25単位の専門選択科目の履修を求めています。

以上の専門基礎科目と専門科目を合わせて90単位を履修することで専攻別の教育目的と目標を達成することとしています。

また教養科目34単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざしています。

教養科目34単位と専門科目90単位の合計124単位を修得することで卒業を認定し、学士（服飾）の学位を授与することとしています。

専門教育課程 専攻別教育目的と目標

専攻名	目的	目標
1) 衣装表現	衣装表現に必要なとされる発想、デザイン・構想、エスキース、制作、プレゼンテーション等の創作のプロセスにウェイトを置いた実践能力の育成を目的とする。	舞台や映画で美しく独創的な衣装を制作する衣装デザイナーなどの人材育成を目標とする。
2) スタイリング	スタイリストの基礎力として、過去から現在までにおける服飾表現の流れ（或いは“流行”）を把握し、社会におけるファッションの役割の上に表現できる能力の育成を目的とする。	TVや雑誌で、モデル、タレント、アーティストの魅力や個性を引き出すスタイリングをするスタイリストなどの人材の育成を目標とする。
3) ビジュアルマーチャンダイジング	魅力的な店舗や展示空間を想定し、視覚的に商品の世界観を伝えることができる能力の育成を目的とする。	ショップやイベント会場で消費者に視覚的に訴える演出を行うVMD(ビジュアルマーチャンダイザー)などの人材の育成を目標とする。
4) ショープロデュース (検討中)	服飾表現における「ショー」に特化し、ステージ形態（舞台）、レイアウト等の造形プラン、音楽、ライティング、映像演出などの空間プラン、モデルのパフォーマンススケジュールなどの時間プランなどを総合したプロデュースとその運営能力の育成を目的とする。	ショーやイベントのコンセプト立案から企画、制作、運営まで観衆を魅了する空間を創るイベントプロデューサーやショースタッフなどの人材の育成を目標とする。
5) 映像・メディア表現	メディアにおける服飾のあり方を考え、視覚情報としてのそのイメージを伝えるために、映像の企画・構想、撮影、編集技術を修得し表現していく能力の育成を目的とする。	TVやネット配信など多彩なメディアでクオリティの高い映像表現を行う映像ディレクター、映像作家などの人材の育成を目標とする。

アセスメントポリシー（学修[教育]成果測定の指標）

1. 初年次教育課程の学修成果測定

- ・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後2年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。
- ・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。
- ・表現学科は4つの専攻によって指標を行う。
- ・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

2. 服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

3. 各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

4. 卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次4年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率
- 服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。
- ・卒業年次の3年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の2年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科2年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

5. 就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
- *専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

Ⅱ. 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の1時限は正味45分ですがこれを1時間と計算します。従って1コマ（2時限続き）は90分としています。

1. 講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を1単位とします。

2. 実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を1単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

Ⅲ. 成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	—	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

◆GPA(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をS→4、A→3、B→2、C→1、D→0と点数に置換えて算出するのがGPAです。

$$GPA = (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した科目の総単位数}$$

専門科	授業科目名	単位数			履修方法			目録	日野	資格取得を目的とするもの	配当年	週時間数		備考		
		講義	演習	実習	必修	選択	自由					学芸員課程	当		前	後
服	流通・商業入門	2				○	○				1	2				
	ファッションビジネス概論	2				○	○				1	2				
	ファッション画Ⅰ		1			○	○				1	2				
	ファッション画Ⅱ		1			○	○				1		2			
	経営学入門	2				○	○				1	2又	は2			
	服飾造形応用		2			○	○				1		4			
	現代デザイン論	2				○	○		○		1	2又	は2			
	ファッション販売論	2				○	○				1	2又	は2			
	流行論	2				○	○				1	2又	は2			
	アパレル素材論	2				○	○				2	2又	は2			
	画像設計演習		1			○	○				2	2又	は2			
	ドローイングⅡ			1		○	○				2	3又	は3	原則としてドローイングⅠ修得者のみ履修可		
	和服構成論・実習Ⅰ			1		○	○				2	3				
	和服構成論・実習Ⅱ			1		○	○				2		3			
	衣服管理	2				○	○				2	2又	は2			
	染色化学	2				○	○				2		2			
	繊維ファッション産業構造論	2				○	○				2	2又	は2			
	ファッション史	2				○	○				2	2又	は2			
	ブライダルファッションプランニングゼミ		2			○	○				2	2	2	2023年新規開講		
	インターンシップ			2		○	○				2・3		集中90h 又は集中			
	色彩論	1				○	○				2		1			
	服飾手芸(ニットを含む)			1		○	○				3	3又	は3			
	リテールマーチャндаイジング	2				○	○				3	2				
	ショップディスプレイ	2				○	○				3	2又	は2			
	服飾クラフト			1		○	○				3	3又	は3			
	アパレル産業論特講	2				○	○				3	2又	は2	2024年度廃止		
	民族衣裳論	2				○	○				3	2又	は2			
染織史	2				○	○		○		3	2					
ファッションプレゼンテーション演習		2			○	○		○		3	4					
ライフスタイル関係	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2				○	○				2	2				
	家庭電気・機械	1				○	○				2	1				
	食物学(実践栄養学)	2				○	○				2		2			
	家庭情報処理	1				○	○				2		1			
	食物学(食品学)	2				○	○				3	2				
	住居学(製図を含む)	2				○	○				3		2			
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	2				○	○				3		2			
	食文化論	2				○	○				3	2				
	食物学(調理実習・実験)Ⅰ			1		○	○				3	3				
	食物学(調理実習・実験)Ⅱ			1		○	○				3		3			
専門選択小計	47	9	9													
専門科目小計	68	93	13													
専門科目合計		174														
専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として 21 単位以上を修得すること。																

教	授業科目名	単位数			履修方法			資格取得を目的とするもの	配当年	週時間数		備考			
		講	演	実	必	選	自			目	日		学	前	後
養	初年次	学修基礎	2			○		○		1	2				
	キャリア	文章表現	2			○		○		1	2				
		情報演習Ⅰ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○		○		1	2				
		情報演習Ⅱ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○		○		1		2			
		キャリアプランニング	2			○		○		2	2				
		社会人基礎A	2				○	○		1	2				
	社会人基礎B	2				○	○		1		2				
	心理学A	2				○	○		1・2	2					
	心理学B	2				○	○		1・2		2				
	文学	2				○	○		1	2又	は2				
	日本美術史	2				○	○	○	1	2又	は2				
	西洋美術史	2				○	○	○	1	2又	は2				
	憲法	2				○	○		1・2	2又	は2				
	社会福祉学A	2				○	○		1・2	2					
	社会福祉学B	2				○	○		1・2		2				
	化学A	2				○	○		1・2	2					
	化学B	2				○	○		1・2		2				
	体育	体育A		1		○	○		1	2又	は2				
		体育B		1		○	○		1・2		2				
	科	国際関係	言語と服飾文化	2			○	○		3・4	2又	は2			
日本文化・日本事情Ⅰ			2			○	○		1・3	2		外国人留学生は履修のこと			
日本文化・日本事情Ⅱ			2			○	○		1・3		2	外国人留学生は履修のこと			
英語(総合)A			2			○	○		2	2					
英語(総合)B			2			○	○		2		2				
ワールド・カルチャーA			2			○	○		2	2					
ワールド・カルチャーB			2			○	○		2		2				
実用英語 A			2			○	○		2	2					
実用英語 B			2			○	○		2		2				
ファッション英語 A			2			○	○		2	2					
ファッション英語 B			2			○	○		2		2				
フランス語(総合)A			2			○	○		2	2					
フランス語(総合)B			2			○	○		2		2				
ファッションフランス語 A			2			○	○		2	2					
ファッションフランス語 B			2			○	○		2		2				
中国語(総合)A			2			○	○		2	2					
中国語(総合)B			2			○	○		2		2				
中国語(会話)A			2			○	○		2	2					
中国語(会話)B	2			○	○		2		2						

授業科目名	単位数			履修方法			資格取得を目的とするもの	配当	週時間数		備考			
	講義	演習	実験	必修	選択	自由			目録	日野		芸術	前	後
英語(総合)Ⅰ	2				○		○		1	2				
英語(総合)Ⅱ	2				○		○		1		2			
基礎英会話Ⅰ	2				○		○		1	2				
基礎英会話Ⅱ	2				○		○		1		2			
フランス語(総合)Ⅰ	2				○		○		1	2				
フランス語(総合)Ⅱ	2				○		○		1		2			
フランス語(会話)Ⅰ	2				○		○		1	2				
フランス語(会話)Ⅱ	2				○		○		1		2			
中国語(総合)Ⅰ	2				○		○		1	2				
中国語(総合)Ⅱ	2				○		○		1		2			
中国語(会話)Ⅰ	2				○		○		1	2				
中国語(会話)Ⅱ	2				○		○		1		2			
日本語Ⅰ	4				○		○		1・3	4	*外国人留学生は下記の欄を参照			
日本語Ⅱ	4				○		○		1・3	4	*外国人留学生は下記の欄を参照			
教養科目小計	102	4	0											
教養科目総合計	108													

服飾表現学科「専攻」、「インターンシップ」に関して

■「専攻」に関して

服飾表現に関する豊かな知識・技術を修得して、服飾表現の専門職業人として活躍できる能力の育成のために、以下のように専攻科目を履修することとする。
 1)一つを選んで「主専攻」とする。
 2)主専攻科目以外の専攻科目の履修による単位取得を可能とする。

■「インターンシップ」に関して

服飾表現に関する豊かな知識・技術を修得して、服飾表現の専門職業人として活躍できる能力の育成のためには、実際の職場における体験でなければ得られないことが多い。それを実践するためには「長期インターンシップ」が不可欠である。
 専攻科目の授業の一環として、以下のように「長期インターンシップ」を実施する。
 ・「長期インターンシップ」は単位化する。
 ・実施は「3年次前期」から「4年次前期」までの期間内とする。
 ・上記期間中に「集中」若しくは「分割」して実施する。

※「長期インターンシップ」に関連する科目

3年前期

- ・「衣装デザイン・制作Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、実験実習2単位)
- ・「スタイリング演習Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位)
- ・「ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅱ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位)
- ・「ショープロデュースⅡ(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位)
- ・「メディア表現Ⅱ(映像・ショープロデュース)(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習2単位)

3年後期

- ・「衣装デザイン・制作Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位)
- ・「スタイリング演習Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位)
- ・「ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅲ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位)
- ・「ショープロデュースⅢ(長期インターンシップを含む)」(3年後期、演習6単位)
- ・「メディア表現Ⅲ(映像・ショープロデュース)(長期インターンシップを含む)」(3年前期、演習6単位)

4年前期

- ・「衣装デザイン・制作卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年前期、演習3単位)
- ・「スタイリング卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位)
- ・「ビジュアルマーチャンダイジング卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位)
- ・「ショープロデュース卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年後期、演習3単位)
- ・「メディア表現(映像・ショープロデュース)卒業制作企画(長期インターンシップを含む)」(4年前期、演習3単位)

- ・教養科目については初年次の「学修基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習Ⅰ」「情報演習Ⅱ」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。
- ・外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれかⅠ～Ⅱまで8単位を修得すること。(母国語を除く)
- *外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。
 具体的には実力テストの結果に応じて①「日本語Ⅰ(4単位)」「日本語Ⅱ(4単位)」を履修する
 ②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。
 但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語Ⅰ(4単位)」「日本語Ⅱ(4単位)」を履修することができる。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

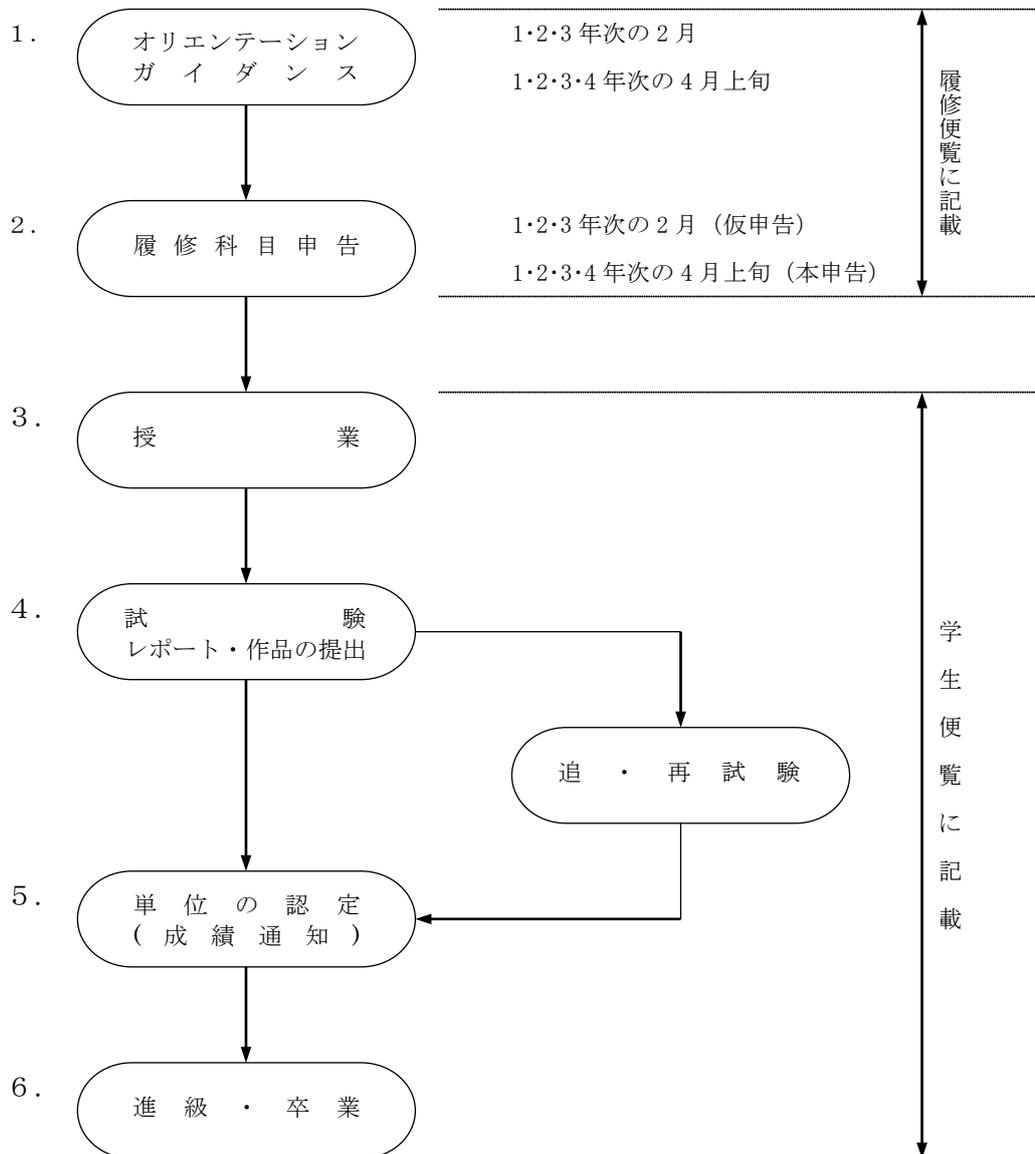
授業科目名	単位数			履修方法			目	日	野	学	配	週時間数		備考				
	講	演	実	卒業を目的とするもの								黒	キ		芸	当	前	後
				必	選	自												
生涯学習概論	2						○			○	1		2					
博物館概論	2						○			○	1		2					
博物館経営論	2						○			○	2	2						
博物館資料論	2						○			○	2	2						
博物館資料保存論	2						○			○	2		2					
博物館展示論	2						○			○	3		2					
博物館教育論	2						○			○	3	2						
博物館情報・メディア論	2						○			○	3		2					
博物館実習			3				○			○	4	3	3及集中	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学				
計	16		3															
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。																		
<p>カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。</p> <p>1) 原則として開講学年順とします。</p> <p>2) 個々の履修状況に応じて審議決定します。</p> <p>(注) 各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。</p>																		

V. 履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。

以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



1. オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。(2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施)

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

2. 履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度学期の開始時に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一か年の学習計画を立て、履修することにより名簿・成績原簿等を作成されます。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

1) 《履修申告にあたっての注意事項》

- ① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講(申告)は禁止されています。
- ② 申告した科目以外は試験(レポート、作品等の提出を含む)を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。
- ③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。
- ④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。
- ⑤ 2・3・4年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

2) 《年間履修単位制限(CAP 制度)》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として1年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 50 単位 です。

※資格関係科目(教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目)は履修制限科目から除外されます。

3) 《履修申告の方法》

履修申告は「[学生ポータル](#)」に登録することにより行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力します。

定められた入力期間内に入力します。入力期間内であれば削除・追加が可能です。

ただし、入力期間内であっても、必修科目、外国語科目及びコース別必修科目のキャンセルは、原則として認めません。

① 1年次の年度始め

1年次前期に受講する科目をすべて申告してください。

② 1・2・3年次の年度末(次年度の受講予定科目の申告のための準備)

これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の計画をたててください。

③ 2・3・4年次の年度始め(2年次以降の受講科目を入力)

※ 一部の科目については、人数調整をする場合があります。

④ 1・2・3・4年次 後期開始前(9月上旬)

後期開講科目について、申告入力期間に入力してください。

4) 《履修科目申告上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

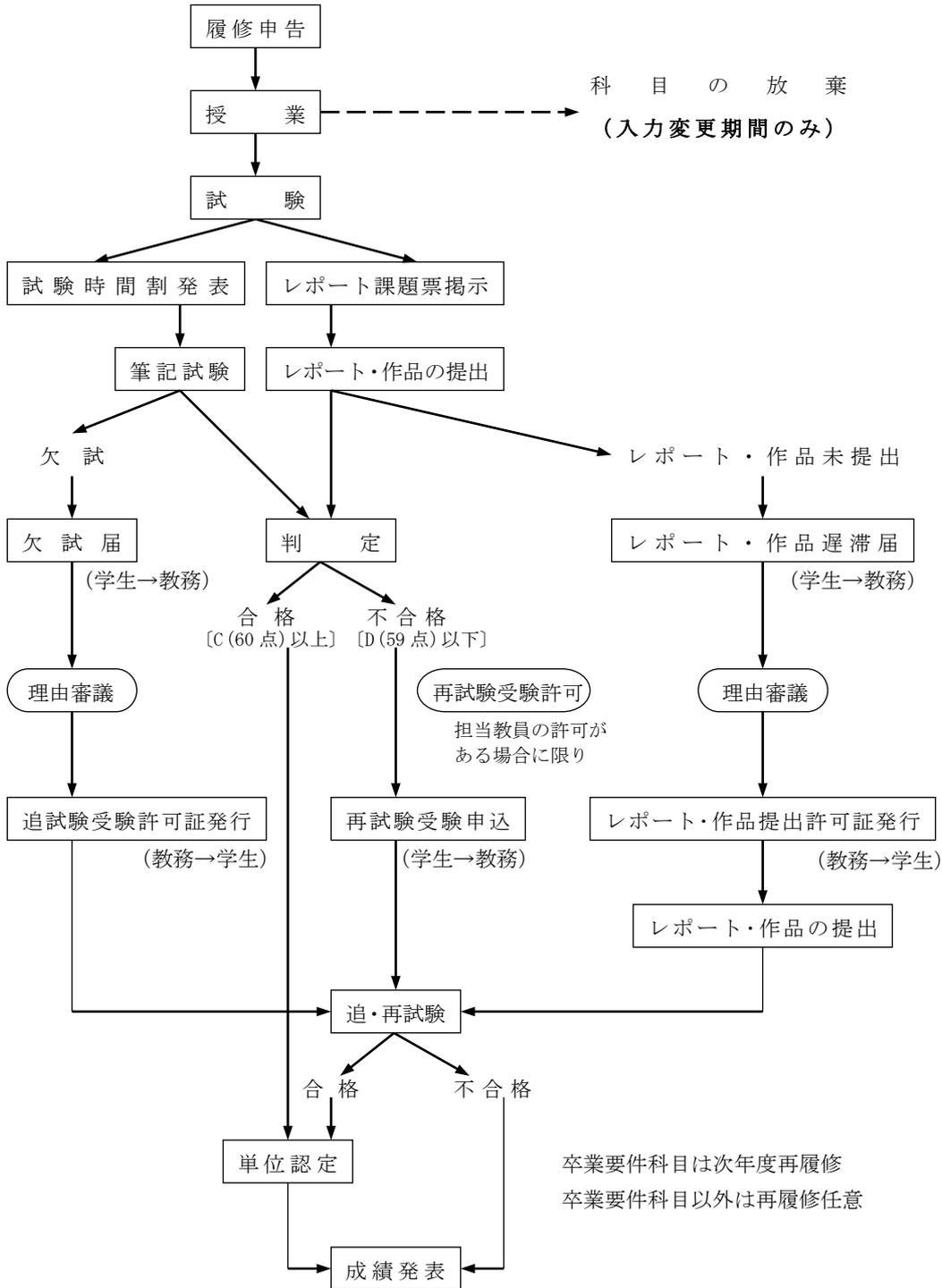
◆入力について

1. 履修科目を確認して入力してください。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程科目も入力してください。
3. 自主ゼミの受講希望者は教務課に申し出てください。
4. 履修単位の表の数字を確認してください。
5. 他学年開講科目(再履修科目等)は各自検索をして入力してください。

《履修科目の放棄について》

- ① 学期初めに本申告をした科目は、一定の入力申告変更期間を設けているため、学期途中で放棄することはできません。キャンセルをしないまま欠席すると当該科目の成績は不合格となります。また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。

履修科目申告から単位認定まで



博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を發揮することが期待されています。

学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

(平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋)

学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

博物館法（平成 26 年 6 月 4 日最終改正より一部抜粋）

（この法律の目的）

第 1 条 この法律は、社会教育法に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2. この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。
3. この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

（博物館の事業）

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- 1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
 - 7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - 10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
2. 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員、その他の職員）

第 4 条 博物館に、館長を置く。

2. 館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
3. 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4. 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
5. 博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
6. 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
2. 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

I. 大学における資格取得のための基礎条件

上記、博物館法第5条（1）に規程されている通りです。

II. 学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第1条に次のように規定されています。（平成27年10月2日最終改正）

科目名	単位数	ね ら い	内 容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の意義 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育 ・生涯学習関連施策の動向 ・社会教育の意義 ・社会教育の内容・方法・形態 ・社会教育指導者 ・社会教育施設の概要 ・学習情報提供と学習相談の意義
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の定義 ・博物館の歴史 ・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性) ・博物館の現状 ・学芸員の役割 ・博物館の館種・設置者 ・博物館関係法規
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム・マネージメントの必要性 ・博物館倫理 ・博物館の行財政制度 ・博物館の施設・設備 ・博物館の組織 ・博物館の職員 ・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等) ・博物館の財務、資金調達 ・マーケティング、広報・宣伝 ・博物館利用者の把握 ・博物館の危機管理 (リスクマネージメント) ・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等) ・博物館のネットワーク
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の収集 ・博物館資料の整理保管 ・博物館資料の保存 ・博物館資料の展示 ・博物館における調査研究活動の意義と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館保存科学の意義 ・資料保存の諸条件とその影響(温湿度・光・振動・大気など) ・収蔵庫と展示室の保存環境 ・伝統的保存方法とIPM ・生物被害の防除と対策 ・資料と環境の点検と記録(機器に対する知識を含む) ・災害の防止と対策(火災・地震・水害・盗難など) ・資料の現状の調査と把握 ・資料の修復 ・資料の移動(梱包と輸送の方法と知識)
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の意義 ・展示の歴史 ・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作 ・業者の評価・効果の検証及び改善方法 ・展示の技術と効果 ・博物館展示の情報伝達機器 ・展示解説書の製作(展示図録・パンフレット等) ・展示活動と情報
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の本質及び目標 ・生涯発達と教育 ・博物館教育の意義と方法 ・博物館教育の理念と理論(コミュニケーション、構成主義等) ・教育活動の企画と実施 ・博物館教育の諸形態(展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等) ・教育普及とコミュニケーション ・博物館と学校との連携 ・生涯学習と博物館 ・博物館教育の評価の目標と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開課題等について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館における情報の意義 ・資料収集保管活動と情報 ・研究活動と情報 ・博物館における情報の提供と活用の方法 ・博物館における情報機器 ・博物館における著作権 ・資料公開の理念(アクセス権)と方法(IT技術等を用いた広報発信等を含む) ・博物館における情報管理と情報公開 ・ICT社会の中の博物館 ・博物館における情報化の現状と課題 ・博物館のホームページ ・コレクション情報のデータベース化とネットワーク化
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館種の実態や学芸員の業務の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の取扱い、展示、博物館の運営等についての学内(見学を含む)及び博物館における実習。事前・事後の指導を含む。

- 1) 博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するものとする。
 - 2) 「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。
2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授 業 科 目 名	
文 化 史 美 術 史 考 古 学 民 俗 学 自 然 科 学 史 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第1条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
規定科目	単位数				
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第6条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
系	列				
選択	文化史	2 履修すること 以上 に わ た り	現代デザイン論	2	
			西洋服飾文化史	2	
			日本服飾文化史	2	
			染織史	2	
			ファッションプレゼンテーション演習	2	
	美術史		西洋美術史	2	
			日本美術史	2	

VII. 授業計画

【整理番号】

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 【1】 マネキン学 | 【26】 言語と服飾文化 |
| 【2】 プレゼンテーション技法 | 【27】 日本文化・日本事情 I |
| 【3】 ポートフォリオ演習 | 【28】 日本文化・日本事情 II |
| 【4】 衣装デザイン・制作 II | 【29】 日本語 I |
| 【5】 スタイリング演習 II | 【30】 日本語 II |
| 【6】 ビジュアルマーチャンダイジング演習 II | |
| 【7】 メディア表現 II (映像・ショープロデュース) | ■学芸員■ |
| 【8】 衣装デザイン・制作 III | 【31】 博物館展示論 |
| 【9】 スタイリング演習 III | 【32】 博物館教育論 |
| 【10】 ビジュアルマーチャンダイジング演習 III | 【33】 博物館情報・メディア論 |
| 【11】 メディア表現 III (映像・ショープロデュース) | |
| 【12】 服飾手芸(ニットを含む) | |
| 【13】 リテールマーチャンダイジング | <2024年度未開講> |
| 【14】 ショップディスプレイ | ショープロデュース II |
| 【15】 服飾クラフト | ショープロデュース III |
| 【16】 インターンシップ | |
| 【17】 民族衣裳論 | |
| 【18】 染織史 | |
| 【19】 ファッションプレゼンテーション演習 | |
| 【20】 食物学(食品学) | |
| 【21】 住居学(製図を含む) | |
| 【22】 保育学(実習及び家庭看護を含む) | |
| 【23】 食文化論 | |
| 【24】 食物学(調理実習・実験) I | |
| 【25】 食物学(調理実習・実験) II | |

マネキン学

池田 公信

3年 前期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションと密接な関係にあるマネキンの歴史や存在意義を学び、その価値と効果を知ることで人とマネキンとファッションの関係性についての知識を深める。

近代のファッションに欠かせないマネキンについての様々な考察は、ファッションのみならずヒトを見つめることであり、それはヒトの欲望とそのイメージ世界を忠実に反映し実体化するマネキンの存在なくして語れないものである。マネキンとは何か、その歴史を振り返り、製法を知り、マネキンが成し得たものと価値、そして存在意義を探求する。マネキンがある種の普遍性をもって現在も存在し続けることの意味を問い、更にこれからのマネキンの在り方とファッションとの関わりについて考察する。

■到達目標 (学修成果)

マネキンを通じて刻々と変化する社会とファッション・ヒト・マネキンを考察することで、ファッションに対するより広い知見を得ることができる。また物事を異なる視点で考察することから得る様々な情報や他者の考えは、興味の有無を問わず物事に対する洞察力や感度を高める好機となる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

科目は卒業認定に必要な必須科目である。マネキンと服飾の関係は、人と服飾の関係と密接に関連しており、本科目で学んだ知見は他の科目にも活かされるものと期待される。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション 講師自己紹介/マネキン学の概要/授業の流れ/マネキンイメージ認識	小レポート「マネキンに対するイメージ」の提出と配布資料の復習	40分
2回	マネキンとは① マネキンとの関係性：ファッション/アート/人形	小レポート「マネキンのファッション性、アート性とは」の提出と配布資料の復習	40分
3回	マネキンとは② マネキンが表すもの：ヒト/マネキンの美 (キレイ・カッコいい・カワイイ)	小レポート「マネキンとヒト、両者に通じる美とは」の提出と配布資料の復習	40分
4回	マネキンとは③ マネキンの構成要素：造形/ヒトガタ/身体性	小レポート「マネキンの根源的な要素について」の提出と配布資料の復習	40分
5回	マネキンの歴史① パリ編 19世紀半ば～1940年代 マネキン誕生前史/パリにマネキン登場/世紀末/アートの影響/日本への影響	小レポート「パリのマネキンから受ける印象について」の提出と配布資料の復習	40分
6回	マネキンの歴史② 日本編 1943年まで マネキンの源流/島津マネキンの独自性/モダニズムの影響/島津以外の企業	小レポート「島津マネキンの先進性について」の提出と配布資料の復習	40分
7回	マネキンの歴史③ 日本編 1950～60年代 洋装化とマネキンの隆盛/マネキン作家の考え方/供養祭と素材の変化	小レポート「急激に西洋化する社会が及ぼすマネキンへの影響」の提出と配布資料の復習	40分
8回	マネキンの歴史④ 日本編 1970年代 既製服の大量生産/体型変化/スーパーリアルマネキン/海外マネキン	小レポート「経済発展する日本のマネキンの変化について」の提出と配布資料の復習	40分
9回	マネキンの歴史⑤ 日本編 1980～90～現代 VMD時代到来/デザイナーとマネキン/空間と素材への意識 30余年の流れから見えること/社会の変化とマネキンへの影響	小レポート「バブル期とDCブランド全盛時代を経て経済変化がマネキンに与えた影響」の提出と配布資料の復習	40分
10回	マネキンの広報活動 広報活動の視点/関係を深めたプロセス/広報の手法/事例など	小レポート「マネキンを“伝える”広報活動の考察」の提出と配布資料の復習	40分
11回	マネキンの製法① プラン/原形 マネキンのターゲット/手づくりを基本技術とするマネキン原形	小レポート「モノづくりとしてのマネキン原形についての考察」の提出と配布資料の復習	40分
12回	マネキンの製法② 型/量産/彩色 伝統工芸的なモノづくり/身体を描く感性	小レポート「プロダクト製品としてのマネキン製品製造についての考察」の提出と配布資料の復習	40分
13回	マネキンのサスティナビリティとビジネス マネキンにとっての環境配慮と持続性/販促ツールとしての機能と効果	小レポート「マネキンの各種取組みとビジネスとしてのマネキンの考察」の提出と配布資料の復習	40分
14回	マネキンの価値と未来 マネキンの存在意義と価値/これからのマネキンとファッションの在り方	小レポート「マネキンの存在、可能性について思うところ」の提出と配布資料の復習	40分
15回	まとめ…敢えてマネキン/マネキンを通して考えてみる 期末レポート課題の発表と提出期限等の説明	小レポート「初回イメージとの差異、その視点、考えの変化について」の提出と配布資料の復習	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小レポートは基本的に授業内に作成し提出。添削結果は次週授業開始時に文書にて返却する。授業時に配布した参考資料及び添削結果をもとに復習に取り組む。小レポートの提出及び内容は成績評価に反映する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 授業時にレジメを配布する。

■参考文献

「マネキンのすべて続編」マネキンディスプレイ商工組合、「七彩70年史」株式会社七彩、「マネキンの歴史」藤井秀雪 著

■オフィスアワー・研究室

初回の授業で提示する。

■備考 毎回の授業で小レポートの提出は、聞き取ることと要点を簡潔にまとめる力を身に付けるために実施する。

プレゼンテーション技法

大極 勝

3年 前期 必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

実社会において、その考えや主張を理解する基本はコミュニケーションの積み重ねにある。そのコミュニケーションを円滑にするために必要となるものがプレゼンテーション力である。そこには情報を発信する側の①外見、②口調、③内容が問われている。コミュニケーショントレーナーとしての実務経験を活かし、各要素の重要性を捉え、アクティブラーニング形式を採用してプレゼンテーションの実践力を養う。

■到達目標（学修成果）

必要な情報を「伝える」から「伝わる」情報となるべく、実社会での様々なシーンを事例に、聴き手に「行動の変容」を起こさせるプレゼンテーション力を体得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、服飾表現学科の必修科目であり、卒業要件科目の単位です。実社会に出た時に、新たな力となる考え方と表現力の基盤を作ることができ、全授業の積極的理解のまとめになります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「プレゼンテーション論」の振り返り 言語、非言語コミュニケーションのあり方確認	復習：コミュニケーションの基本確認 全15回のレジュメ・課題をmanaにて配信	20分
2回	プレゼンテーション実習① 3分間自己紹介作成とグループ実習（内容と表現方法）	復習：自己紹介文のブラッシュアップ	30分
3回	プレゼンテーション実習② 3分間自己紹介の全体プレゼンテーションと評価表	復習：自己紹介文の完成	20分
4回	原稿持ちプレゼンテーションと原稿暗記プレゼンテーション それぞれのメリット、デメリット比較	復習：両方法の使い勝手を理解 （手持ちマイクとピンマイク使い勝手）	20分
5回	シンプルスライド（TED）と書き込みスライド（社用） それぞれのメリット、デメリット比較	復習：両方法の使い勝手を理解	20分
6回	プレゼンテーション実習③ 企業面接理解と面接を想定した紹介文作成	復習：紹介文のブラッシュアップ	20分
7回	プレゼンテーション実習④ 面接想定グループプレゼンテーション	復習：紹介文の修正・完成	20分
8回	プレゼンテーション実習⑤ クラス全体プレゼンテーション	復習：面接実践に向けて振り返り	20分
9回	外部ゲストのプレゼンテーションを学ぶ①	復習：自身のプレゼンとの違いを感じる	20分
10回	外部ゲストのプレゼンテーションを学ぶ②	復習：自身のプレゼンとの違いを感じる	20分
11回	プレゼンテーションVTRからプレゼンテーションを学ぶ TEDを素材にして、あるべき見本を確認する	復習：次回に向けて振り返り	20分
12回	プレゼンテーション実習⑥ 面接想定プレゼンテーション完成へ向けて	復習：プレゼン実習⑤との違いを感じる	20分
13回	プレゼンテーション実習⑦ 面接想定プレゼンテーション完成	復習：面接想定プレゼンテーションを完成	20分
14回	プレゼンテーション実習⑧ 最強の自己紹介を完成する	復習：次回に向けて振り返り	20分
15回	「まとめ」として小テスト実施 授業内容の総合的な理解度を確認する	復習：将来に向けて振り返り	20分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各回でプレゼンへのフィードバックと感想文回収。期末レポートまたはプレゼンテーションにて最終評価。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

各回とも、当日使用資料、関連情報等を授業終了後にmanaにてデータ配信。

■参考文献

授業時間に指示

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの日時については初回授業で提示します。

■備考

全15回ともmanaにて授業用レジュメ・課題等を配信。

ポートフォリオ演習

千代崎 寛

3年 前期 必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

分野を問わず様々な領域で活躍するクリエイターは自身の作品や活動の記録を意識的に活用している。この授業の目的はポートフォリオの制作を通じて各自がセルフプロデュースを行っていく手掛かりとすることである。他者に伝えるための客観的な視点に立ち、記録と編集を繰り返すことによって自分自身の思考プロセスや軸となるもの、魅力となり得る持ち味などを自己分析することが肝要である。制作と併行して記録のためのスタジオワーク、編集段階での知的財産権（引用・クレジットなど）の考え方をグラフィックデザインの技術（レイアウト）から実践していく。各自の思考の広がりや表現力、社会との関係における自身の視点を準備していく。

■到達目標（学修成果）

- 1.各専門分野におけるビジュアルイメージを具体化するための基礎的な「表現能力」を身に付けることが可能となる
- 2.制作・演習とノートによる記録を通して「ポートフォリオ」の重要性について考察や理解ができる
- 3.多角的な視点でポートフォリオをとらえ活用する術を知ることができる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については「ポートフォリオ演習」は服飾表現の分野で企画・提案や実際の現場において活躍できる専門力向上に資する科目です

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション・授業概説と導入 ポートフォリオと進路の関係について～ 課題「ノート」について	復習：配布資料（授業概要、授業計画など）の内容を熟読しておく。	30分
2回	演習①_1「作品」または「活動記録」のリストアップ 課題① フィールドワーク①「専攻分野別のリサーチ①調査」	予習：「ノート」準備 復習：フィールドワーク①調査	60分
3回	演習①_2「コンセプト・構成を考える」※データ管理の配慮 制作①_1 台割りとファイリングサンプルの制作	復習：フィールドワーク①調査・プレゼンテーション用ボード準備、制作①へ向けて	60分
4回	課題①プレゼンテーションとディスカッション・講評 制作①_2 台割りとファイリングサンプルの制作・「ノート」提出	予習：演習②_1へむけてのリサーチ 復習：制作①の仕上げ	90分
5回	演習②_1「記録画像の撮影①」（スタジオライティング演習） 課題② フィールドワーク②「専攻分野別のリサーチ②批評」	予習：演習②_2へむけてのリサーチ 復習：フィールドワーク②まとめと分析	60分
6回	演習②_2「記録画像の撮影②」（スタジオライティング演習） 制作②_1 ブックレット制作① ※撮影現場における配慮について	予習：演習②_2へむけてのリサーチ 復習：制作②仕上げ、課題②プレゼン準備	90分
7回	課題②プレゼンテーションとディスカッション・講評 制作②_2 ブックレット制作②・※編集における配慮について	制作③へむけてリサーチ 復習：フィールドワーク②批評準備	60分
8回	制作②ブックレット制作プレゼンテーションとディスカッション 制作③_1 ポートフォリオ①_1 ※プライバシー・肖像権について	復習：制作③の制作・ファイリングリサーチ	90分
9回	制作③_2 ポートフォリオ①_2（ファイリング） ※知的財産権の考え方・著作権の表記について	復習：制作③の制作・ファイリングリサーチ	90分
10回	制作④_1 ポートフォリオ②_1（オリジナル製本） 台割りとファイリングサンプルの制作・「ノート」提出	復習：制作④の制作・製本リサーチ	60分
11回	制作④_2 ポートフォリオ②_2（オリジナル製本） グループワークでのブラッシュアップ・プレゼンテーション	復習：制作④の制作・製本リサーチ	60分
12回	制作⑤_1 ポートフォリオ③_1（オリジナル製本・ファイリング） 台割りとファイリングサンプルの制作・「ノート」提出	復習：制作⑤の制作・プレゼンテーション準備	60分
13回	制作⑤_2 ポートフォリオ③_2 グループワークでのブラッシュアップ・プレゼンテーション	復習：制作⑤の制作・プレゼンテーション準備	60分
14回	制作⑤_3 ポートフォリオ③_3 プレゼンテーションとディスカッション・講評・「ノート」提出	復習：制作⑤の制作	90分
15回	まとめ・展開 ※表現・公開・出版	予習：ポートフォリオの継続展開	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッションと研究ノート・課題返却のコメント、プレゼンテーションの講評などで授業内にて随時フィードバックを行う。15回目提出された「ノート」の添削、返却方法は授業内に指示します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 なし

■参考文献

授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：第1回目の授業で指示する。研究室：空間構成研究室（日野校舎B棟106）

■備考 専攻・専門の枠内だけではなく他の分野への興味や好奇心・関心や体験を持つことを常に意識して欲しい。

衣装デザイン・制作Ⅱ

大町 志津子・瀧川 美佐子

3年 前期 選択 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

この授業の目的は衣装表現に必要な知識と表現力を学び、造形技術の基礎力・応用力を身に付けることにある。担当教員の欧米におけるオペラ、バレエ、映画等の衣装デザイナーのキャリアを活かした実践的なデザイン指導や、アパレルメーカーでのモデリスト、パタンナーとしての実務経験に基づく技術指導により各自の衣装に対する表現力を養う。衣装表現に必要な知識と表現力を写真や映像などで学び、造形していくための基礎力、応用力、技術力を養う。

到達目標（学修成果）

西洋服飾史の知識を得て時代衣装を把握し、イメージを作りデザイン画を描き実際に制作することができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は服飾表現学科の衣装デザイン専攻の学生にとって必修であり、服飾表現の基礎となる表現方法を学ぶ科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	大町、瀧川：オリエンテーション 18世紀スタイルの衣装制作に向けての講義、時代衣装の考察 時代衣装と現代の服との関連性について説明	予習：シラバスの確認 復習：時代考証の解釈	60分
2回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション 人物像の考察レポートとデザイン画の説明 瀧川：原型制作	予習：イメージ作り 復習：レポート・デザイン画準備	60分
3回	大町：動画を観ながら衣装表現を学ぶ、デザイン相談1 瀧川：各アイテムのパターン制作	予習：テキストの下調べ 復習：制作を進める	30分
4回	大町：映画動画を観てイメージトレーニング・デザイン画作成 生地・服飾素材についてのオリエンテーション 瀧川：パターン・トワル制作	予習：レポート・デザイン画作成 復習：レポート・デザイン画修正	60分
5回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション デザイン画の描き方（模写1）、デザイン相談2（素材や生地も含む） 瀧川：トワル制作・点検	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
6回	大町、瀧川：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション 空間の中での衣装の認識・スタジオ演習 動画を観ながら衣装表現を学ぶ	予習：レポート・デザイン画修正 復習：イメージを深める	60分
7回	大町：6回目に対するフィードバック、デザイン画の描き方（模写2） 瀧川：衣装制作1	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
8回	大町、瀧川：校外研修（舞台、映画、展覧会鑑賞など）で衣装を立体的に 学びレポート提出	予習：題材について知識を得る 復習：レポート作成	30分
9回	大町：映画動画を観てイメージトレーニング・デザイン画作成 瀧川：衣装制作2	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
10回	大町：音楽からのイメージトレーニング・デザイン画作成 空間の中での衣装の認識・照明の効果などスタジオ演習 瀧川：衣装制作3	予習：イメージを深める 復習：撮影企画書制作	30分
11回	大町：10回目に対するフィードバック、 瀧川：衣装制作4（修正1）	予習：制作を進める 復習：制作を進める	30分
12回	大町、瀧川：トータルイメージに向けての考察1 撮影企画書提出 ポートフォリオ作成における研究倫理について	予習：スタイリング考察 復習：完成イメージを深める	30分
13回	大町：トータルイメージに向けての考察2、 瀧川：衣装制作5（修正2）	予習：課題作品を完成させる 復習：ポートフォリオ作成	60分
14回	大町、瀧川：各自メイクやヘアスタイル整え製作した衣装を着装し撮影する。 「カメラワーク・照明・背景」で衣装のトータルイメージを最終的に 完成させる、スタジオ撮影、ポートフォリオ提出	予習：撮影のための準備 復習：プレゼンテーションの準備	60分
15回	大町、瀧川：プレゼンテーション・ディスカッション・講評	予習：プレゼンテーションの準備	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内に提出した課題について随時解説と講評を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて資料を配布する。

■参考文献 Patterns of Fashion Janet Arnold 著 Women's Dress Patterns Susan North and Jenny Tirana 著

■オフィスアワー・研究室 日野校舎 B202 衣装表現研究室 オフィスアワー：第1回目の授業で指示する。

■備考 進度により日程及び内容を変更する場合がある。

感性を磨きより広い視野を持つことを各自が心がける。

スタイリング演習Ⅱ

中村 のん・数井 靖子

3年 前期 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

授業担当の40年以上にわたるスタイリストとしての経験を元に、スタイリストにとって関わり深い写真世界への知識を深め、広告・雑誌の作られ方について学びます。また、二年度で学んだ時代別ファッションをふまえた作品作りを通して、流行の変遷の知識を定着させます。授業担当の実務経験による実際の衣服を使用した授業では、個性を引き出し魅力的に見せるための人と衣服とのバランスやポーズ、撮影における背景やアングル、さらにはファッションを通じて人とコミュニケーションする方法について学びます。

■到達目標（学修成果）

雑誌・写真・広告等におけるファッションの位置づけを理解し、流行と社会の関係を理解する能力を習得し、人と衣服の関係を理解できる知識とスタイリング技術を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

服飾表現学科のスタイリング専攻において卒業認定に必要な必修科目です。より専門性を高めて学修していく上での基礎科目になります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【中村・数井】2年で学んだ時代考察をふまえた「時代別ファッションの歴史」のマップ制作のための資料の探し方、見方を講義	予習：資料集め	90分
2回	【数井】「時代別ファッションの歴史」のマップ制作のための企画案の提出とフィードバック	予習：資料集め 自宅での制作	90分
3回	【数井】「時代別ファッションの歴史」のマップ制作に関する指導	予習：資料集め 自宅での制作	90分
4回	【数井】「時代別ファッションの歴史」のマップ制作に関する指導	予習：資料集め 自宅での制作	90分
5回	【中村・数井】「時代別ファッションの歴史」のマップ制作のためのコラージュ作成&提出、及びプレゼン、フィードバック	予習：資料集め 自宅での制作	90分
6回	【中村・数井】「写真の世界」担当教員のスタイリストとしての40年間の実務経験を踏まえ、写真集の作られ方についての講義	予習：資料集め	90分
7回	【中村・数井】「写真の世界」写真集を資料としながら、担当教員の経験を通して、あらゆる写真媒体におけるスタイリストの役割や、モデルやタレントのイメージ作りについての講義	予習：資料集め 復習：感想レポート	90分
8回	【中村・数井】「写真の世界」写真集を資料としながら、著名な写真家やその世界の理解の仕方、写真の種類について講義	予習：資料集め 復習：感想レポート	90分
9回	【中村・数井】「雑誌の読み方・作られ方」雑誌制作の現場におけるスタッフの構成、制作のプロセス、ページ割、企画の出し方などの講義	予習：資料集め 復習：感想レポート	90分
10回	【中村・数井】「雑誌の読み方・作られ方」ジェンダー別、年代別、タイプ別の雑誌の種類と読者ターゲットの見極め方についての講義	予習：書店で雑誌の種類を調べる 復習：感想レポート	90分
11回	【中村・数井】「雑誌の読み方・作られ方」ファッションページにおけるクレジット、キャプション、必要な用語に関する講義	復習：わからない単語について調べる	90分
12回	【中村・数井】「ファッション撮影」時代別ファッションをテーマに、「ある時代」をテーマとしたスタイリングの実践	準備：自前の洋服や小物を持ち寄る	60分
13回	【中村・数井】「ファッション撮影」担当教員のスタイリストとしての40年間の実務経験からロケ撮影におけるスタイリストの動きを指導	復習：感想レポート	90分
14回	【数井】「ファッション撮影」撮影した写真のプレゼン、セレクトの方法を講義し、フィードバックとディスカッション	予習：画像セレクトして教室内のPCにデータをまとめる	90分
15回	【数井】「ファッション撮影」撮影した写真を元に制作する写真集の企画案提出とフィードバック	予習：自宅での制作	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

感想文は添削して、翌週返却する。各提出作品、レポートに評価を与え、授業内外で返却時にフィードバックをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 授業内容に合わせて授業担当がプリントを作成して配布。学生は一冊のファイルにまとめる。

■参考文献

必要に応じて授業時に指示。授業担当者所蔵の写真集、書籍等を研究室に保管して、必要に応じて使用。

授業時に使用するDVDや書籍に関して、図書館から借りる、購入する、レンタルする等に関しては、事前に伝え準備する。学生に購入を求める場合もあります。※「増補新版 図解服飾用語事典」（杉野芳子・編著）杉野学園ドレスメーカー学院出版局

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：授業初日に伝えます 研究室：日野校舎 B203

■備考

スタイリング演習Ⅰ修得者のみ履修可。

写真展鑑賞、撮影等、フィールドワークの内容により学外に出ることもあります。スタイリスト関連のプロをゲスト講師とした講義を行うこともあります。学生が準備する備品に関しては授業時に告知します。進展により、日程及び内容を変更する場合があります。

ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅱ

中島 ゆう子

3年 前期 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

VMDを学ぶ。ビジュアルマーチャンダイジングⅡは、ファッションの基本、素材名、ディテイル名、アイテム名、サイズなど学生が触って覚える授業を実施。将来、企業で働いた時に必要なファッションの基本を徹底的に指導し、どんな時にも対応できるレベルアップを図る。後半は催事を伴ったVPを主力にしたマケットを作成。資質、能力、判断力、知識、教養がある豊かな人間性を作り上げることを目指します。授業担当者のファッション・プロデューサーとしての実務にも触れながら授業を実施します。

■到達目標（学修成果）

ファッションの基本をじっくり学ぶ。店舗の販売戦略、販売商品、流行カラー、トレンド分析など基本を学ぶ。1年間の営業スケジュールを理解し、売り場の流れ、販売戦略が組める人材を育成することが目標です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ビジュアルマーチャンダイジング専攻学生の卒業認定に必要な科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	基本用語の復習。ゴールドメンバーの意味、ゴールドメンバー、VP活用法などを指導。	予習：基本用語の暗記	45分
2回	素材の基本を学ぶ。VMDに必要な素材名を触って理解する授業の実施。カットソー、布帛、ニットを学ぶ	復習：天竺、畦編み、コーディロイなど市場で流通する素材を事前調査	45分
3回	素材小テスト実施。ディテイル名の勉強。ネックの名称、袖の名称、袖口の名称など全てを暗記する。	復習：勉強したディテイル名を暗記	45分
4回	アイテム名の勉強。カーブパンツ、クロプト丈トップス、パンツ、重衣料、ワンピースなどアイテム名を覚える。	予習：勉強したアイテム名の暗記。	45分
5回	ディテイル、アイテム名の小テスト実施。 1月～6月。店舗写真を使い月度毎の売り場展開を学ぶ。	復習：1月～6月の店舗運営に必要な事項をレポートにまとめる。	45分
6回	7月～12月。店舗写真を使い月度毎の売り場展開を学ぶ。 主要アイテム、別度別カラーの流れ、コーディネイトなど。	復習：7月～12月の店舗運営に必要な事項をレポートにまとめる	45分
7回	5回、6回の授業を受けてから52週営業スケジュール作成。1年間の売り場の運営、戦い方の表を作成、提出。	復習：52週営業ストーリーを作成。 提出日は8回目の授業開始時。	45分
8回	マーケットリサーチ実施。企業がどんなフェアや催事を仕掛けているかの調査。その後ディスカッション。	復習：コラージュ作成。	45分
9回	VPマケット作成①魅力的なコラージュ、及びVP計画書作成。フェア催事を含めて集客力が上がる店舗空間が基本。	予習：100円ショップで店舗に使う小物を購入。	45分
10回	VPマケット作成②1/10サイズで作成。 床、壁面、天井の決定。	予習：足りない小物を追加購入。	45分
11回	VPマケット作成③1/10サイズで作成。什器の決定。 質問、修正を重ねながら進行する。	復習：自宅で棚、ラック、ハンガーを作成。	45分
12回	VPマケット作成④1/10サイズで作成。商品の決定。パンフレット、POPなどを作成。	復習：VPを完成させる。	45分
13回	VPマケット作成⑤1/10サイズで作成。 最終仕上げ。次週のプレゼン練習。	復習：プレゼン練習。	45分
14回	VPマケット作成⑥プレゼンテーション実施 講評とディスカッション。作品を写真にて保存する。	復習：プレゼン反省	45分
15回	VMD検定のチェック。課題を検討しビジュアル検定に合格できるノウハウを身につける。	復習：レポート提出。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題提出のフィードバックは、授業内で講評、解説し返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

改定第3版 国家検定 商品装飾展示技能検定 学科編 技能編 著者：日本ビジュアルマーチャンダイジング協会

■参考文献 VMD用語辞典 著書：日本ビジュアルマーチャンダイジング協会 発行：織研新聞社

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは、日野校舎B棟 B205 B101

■備考

ビジュアルマーチャンダイジング検定3級合格を目指します。

メディア表現Ⅱ（映像・ショープロデュース）

角倉 典彦・澤野 洋士

3年 前期 選択 （2単位 演習）

■授業の方針・概要

課題による様々な映像作品制作演習を主なものとする。実務者である現役映像ディレクターの指導の下、個別制作とグループ制作により課題テーマを、企画/撮影準備/撮影/編集などにより具現化する。またスタジオ形式の放送番組制作とインターネット放送局運営の実施演習も行い、オープンキャンパス日に学内にてインターネット放送をデモンストレーションする。

■到達目標（学修成果）

映像制作のノウハウや技術だけではなく、論理的な企画/構成を立てられる思考方法の修得を目指す。映像を主体として様々な表現方法を使い分けられるようになることが目的である。また学生がインターネット放送局を自主運営出来ることも到達目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

メディア表現専攻学生の卒業要件科目で、必修科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	角倉：オリエンテーション 課題1 映像制作① 企画立案 (日野校舎)	復習：番組企画書と構成案の作成	120分
2回	角倉：課題1 映像制作② 企画プレゼンテーション/ロケーションハンティング/撮影準備/撮影 (日野校舎)	復習：撮影	180分
3回	澤野：課題1 映像制作③ 編集/MA (日野校舎)	復習：編集/MA	120分
4回	角倉：課題1 作品プレゼンテーション、講評 課題2 提示 映像制作① 企画立案 (目黒校舎)	復習：番組企画書と構成案の作成	60分
5回	澤野：課題2 映像制作② 企画プレゼンテーション/ロケーションハンティング/撮影準備/撮影 (日野校舎)	復習：撮影	180分
6回	澤野：課題2 映像制作③ 撮影 (日野校舎)	予習：撮影データ管理/整理	60分
7回	澤野：課題2 映像制作④ 編集/MA (日野校舎)	復習：編集/MA	120分
8回	角倉：課題2 作品プレゼンテーション、講評 課題3 提示 映像制作① 企画立案 (目黒校舎)	復習：番組企画書と構成案の作成	60分
9回	澤野：課題3 映像制作② 企画プレゼンテーション/ロケーションハンティング/撮影準備/撮影 (日野校舎)	復習：撮影	60分
10回	澤野：課題3 映像制作③ 撮影 (日野校舎)	予習：撮影データ管理/整理	30分
11回	澤野：課題3 映像制作④ 編集/MA (日野校舎)	復習：編集/MA	180分
12回	角倉：課題3 作品プレゼンテーション、講評 完成作品ポートフォリオ制作	復習：ポートフォリオ完成	60分
13回	角倉：ネット放送局立ち上げ準備 グループ討議 サブ出しVTR 編集/テロップ作成/リハーサル (日野校舎)	復習：構成案/シナリオ作成	60分
14回	角倉：ネット放送局立ち上げと運営リハーサル、機材セッティング/リハーサル、構成シナリオ作成 (目黒校舎)	復習：サブ出しVTRの制作	120分
15回	角倉：オープンキャンパス日にネット放送「SUGINO.TV(仮称)」運営制作デモンストレーション (目黒校舎)	予習：当日段取り確認	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

メール等を活用し常時質問等を受け付ける。課題については授業内で講評。レポートはその都度メールにて提出し、添削後メールで返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

特になし

■参考文献

その都度プリントにて配布

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示。研究室：日野校舎 B105 映像・メディア表現研究室 連絡：教務課

■備考

動画撮影カメラとノンリニア編集ソフト(プレミアなど)を、使いこなせることを前提とする。

衣装デザイン・制作Ⅲ

大町 志津子・瀧川 美佐子

3年 後期 選択 (6単位 演習)

■授業の方針・概要

この授業の目的は衣装表現に必要な知識と表現力を学び、造形技術の基礎力・応用力を身に付けることにある。担当教員の欧米におけるオペラ、バレエ、映画等の衣装デザイナーのキャリアを活かした実践的なデザイン指導や、アパレルメーカーでのモデリスト、パタンナーとしての実務経験に基づく技術指導により各自の衣装に対する表現力を養う。

■到達目標（学修成果）

西洋服飾史の知識を得て時代の衣装を把握し、イメージ作りデザイン画を作成し実際に制作することができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は服飾表現学科の衣装デザイン専攻の学生にとって必修であり、服飾表現の基礎となる表現方法を学ぶ科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	大町、瀧川：オリエンテーション 19世紀スタイルの衣装制作に向けての講義 時代衣装の考察 時代衣装と現代の服との関連性について 学外演習に向けての事前学習を行う	復習：文献・資料を見ておく	60分
2回	一般企業(衣装制作関連)において学外演習を行う	復習：学外演習日誌の記入	30分
3回	一般企業(衣装制作関連)において学外演習を行う	復習：学外演習日誌の記入・講評	60分
4回	大町：学外演習を受けてのプレゼンテーション 日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション イメージトレーニングでデザイン画作成、デザイン相談 1 瀧川：衣装制作 1 (19世紀)	予習：時代考証 復習：レポートデザイン画作成	60分
5回	大町：生地・服飾資材についての説明、動画を観ながら衣装表現を学ぶ 瀧川：衣装制作 2	予習：制作を進める 復習：制作を進める	60分
6回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション イメージトレーニング・デザイン画作成、デザイン相談 2 大町、瀧川：空間の中での衣装の認識・スタジオ演習	予習：レポートデザイン画修正 復習：イメージを深める	60分
7回	大町：映画動画を観てイメージトレーニング・デザイン画作成、6回目に対するフィードバック 20世紀スタイルの衣装制作に向けての講義 時代衣装の考察 瀧川：衣装制作 3	予習：制作を進める 復習：制作を進める	60分
8回	大町、瀧川：郊外研修（舞台、映画、展覧会鑑賞など）で衣装を立体的に学び、レポート提出	予習：題材について知識を得る 復習：レポート作成	60分
9回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、デザイン相談 1 瀧川：衣装制作 1 (20世紀)	予習：制作を進める 復習：制作を進める	60分
10回	大町：音楽からのイメージトレーニング・デザイン画作成、デザイン相談 2 イメージトレーニング・デザイン画作成 空間の中での衣装の認識・スタジオ演習 瀧川：衣装制作 2	予習：イメージを深める 復習：イメージを深める	60分
11回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション、デザイン相談 3 瀧川：衣装制作 3	予習：制作を進める 復習：制作を進める	60分
12回	大町：日々見たもの・感じたものを描きプレゼンテーション イメージトレーニング・デザイン画作成 大町、瀧川：トータルイメージに向けてのアクセサリー、小物、靴やメイクやヘアスタイルの考察 撮影に向けての企画書提出	予習：撮影企画書作成 復習：スタイリングを考える	60分
13回	大町：12回目に対するフィードバック、ポートフォリオ作成における研究倫理について 瀧川：衣装制作 4 (修正)	予習：作品を完成させる 復習：ポートフォリオ作成	60分
14回	大町、瀧川：各自メイクやヘアスタイルを整え、制作した衣装を着装し撮影をする。「カメラワーク」照明・背景」で衣装のトータルイメージを最終的に完成させる。ポートフォリオ提出	予習：撮影のための準備をする 復習：プレゼンテーションの準備	60分
15回	大町、瀧川：プレゼンテーション・ディスカッション・講評	予習：プレゼンテーションの準備	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内に提出した課題について随時解説と講評を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書必要に応じて資料を配布する。

■参考文献 Patterns of Fashion Janet Arnold 著 Women's Dress Patterns Susan North and Jenny Tirana 著

■オフィスアワー・研究室 日野校舎 B202 衣装表現研究室 オフィスアワー：第1回目の授業で指示する

■備考 進度により日程及び内容を変更する場合もある。 感性を磨きより広い視野を持つ事を各自心がける。

スタイリング演習Ⅲ

中村 のん・数井 靖子

3年 後期 選択 (6単位 演習)

■授業の方針・概要

スタイリストの仕事は、各分野のプロたちや、様々なカルチャーと交流します。人とのコミュニケーションとあらゆるニーズへの対応力はスタイリストにとってひじょうに重要な部分です。三年次後期では、学外演習を主とし、授業担当者の40年のキャリアの中で関係してきた企業、または個人の元での実体験を通して視野を広げ、スタイリストのみならず、アパレル業界、エンタメ業界への理解を深めます。

課題「白いシャツから広がる世界」では、学外演習を通して学んだ知識やスキルを活かして、授業担当者の実務経験による指導の下、リメイク衣装の制作とスタイリング、撮影の実践を通して、人を魅力的に見せる衣服のバランスを見る力と、ファッションを通して人とコミュニケーションする自信を身につけます。学外演習、授業時間以外の時間を使って各自で進められる課題を出します。

■到達目標（学修成果）

学外演習と写真撮影を通してプロとして仕事をしてゆく上での自信につなげてゆきます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

服飾表現学科のスタイリング専攻において卒業認定に必要な必修科目です。プロになることを前提に、より専門性を高め学修していく上での科目になります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【中村・数井】後期授業のオリエンテーション スタイリストにとって必要な基本スキルの実践 【数井】学外演習に関する説明	準備：たたみ、ラッピングの実践のための自前のアイテム持参	30分
2回	学外演習	課題：ショッピングリサーチ 復習：感想レポート	240分
3回	学外演習	準備：「学外演習日誌」の記入	15分
4回	学外演習	課題：授業担当者指定の映画、展示等に行く 復習：感想レポート	180分
5回	学外演習	準備：「学外演習日誌」の記入	15分
6回	学外演習	準備：「学外演習日誌」の記入	15分
7回	学外演習	準備：「学外演習日誌」の記入	15分
8回	学外演習	準備：「学外演習日誌」まとめる	30分
9回	学外演習体験後の報告。日誌提出 【中村・数井】課題「白いシャツから広がる世界」デザイン画作成	準備：白シャツ購入	120分
10回	学外演習 【数井】白シャツリメイク制作	準備：リメイクするための材料を揃える	120分
11回	【中村・数井】「白いシャツから広がる世界」 スタイリングした白シャツのコーディネート実践	準備：リメイクした作品、 コーディネートに使用するアイテム持参	120分
12回	【中村・数井】「白いシャツから広がる世界」リメイクした白シャツを着用したロケーション撮影実践	復習：感想レポート	60分
13回	【中村・数井】「白いシャツから広がる世界」撮影した写真のセレクトとプレゼンとフィードバック。 「白いシャツから広がる世界」写真集制作とボード制作に関するオリエンテーション	復習：提出に向けて自宅でも制作を進める	120分
14回	【数井】「白いシャツから広がる世界」写真集制作	復習：提出に向けて自宅でも制作を進める	120分
15回	【中村・数井】課題作品「白いシャツから広がる世界」提出 作品のプレゼンとフィードバック 来年度授業に関するオリエンテーション。春休みの課題説明	予習：課題制作 復習：課題図書感想レポート	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

感想文は添削して返却する。各提出作品、レポートに評価を与え、授業内外で返却時にフィードバックをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 授業内容に合わせて授業担当者がプリントを作成して配布。学生は返却された課題を含め、一冊のファイルにまとめる。

■参考文献

必要に応じて授業時に指示。授業担当者所蔵の写真集、書籍等を研究室に保管して、必要に応じて使用。

授業時に使用する映画のDVDや書籍に関して、図書館から借りる、購入する、レンタルする等に関しては事前にタイトルを伝え準備する。

学生に購入を求める場合もあります。※「はじめてのエシカル」（山川出版社）ほか

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワー：授業初日に伝えます 研究室：日野校舎 B203

■備考

スタイリング演習Ⅱ修得者のみ履修可。学外演習、およびショッピングリサーチや撮影等、フィールドワークの内容により学外に出ることもあります。スタイリストと関連のあるプロをゲストとして招く可能性もあります。学生が準備する備品に関しては、授業時に告知します。学外演習は企業側の都合を優先しますので、進展により、日程及び内容を変更する場合があります。

ビジュアルマーチャндаイジング演習Ⅲ

中島 ゆう子

3年 後期 選択 (6単位 演習)

■授業の方針・概要

ビジュアルマーチャндаイジングⅢは、VP計画書作成のためにパソコンを使い、単品商品、スタイリング、売り場をイラストレーターで仕上げる。企業に入ってもPCを使いこなせるよう指導。

後半は、ウィンドウディスプレイをリアルサイズで制作。来年度の卒業制作の前準備とする。カラーージュを作成し。ファッションテーマ、カラー、スタイリングを決定し、ディスプレイ作業を実践する。

授業担当者のファッション・プロデューサーとしての実務にも触れながら授業を実施します。

■到達目標（学修成果）

テーマのつくり方、ディスプレイなど実践的な学修をする。実務として売り場のウィンドウディスプレイ及びVMDを作成できることが到達目標です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ビジュアルマーチャндаイジング専攻学生の卒業認定に必要な科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	VMD検定に必要な学習。コーディネートできる単品4型、カラー、素材を決定し表作成する。	予習：自宅で板絵の練習	45分
2回	VMD向けに単品商品のイラストを描く① 鉛筆で描き、PCで仕上げる作業。	復習：ファッションテーマを考える。	45分
3回	VMD向けに単品商品のイラストを描く② 素材感を入れ、テーマカラーに合わせて着色する。	予習：スタイリング、コーディネートを考える。	45分
4回	VMD向けにスタイリングを描く③ 鉛筆で描き、PCで仕上げる作業。	予習：テーマからVPデザインまで、連動性を持ってテイストを構築する。	45分
5回	VMD検定に必要なVPスケッチを描く④ パソコンを駆使し、VPを作成。	復習：VMDテーマの作成。PCで必要なアイテムを選ぶ作業。	45分
6回	VMD検定に必要なVPスケッチを描く⑤ VPを作成。ウィンドウディスプレイに連動させる。	予習：VPを描けるように練習。	45分
7回	ウィンドウディスプレイ演習① 卒業制作の前準備を開始。 マーケティング、イメージカラーージュ、VP計画書作成。	予習：イメージカラーージュ作成の準備。	45分
8回	ウィンドウディスプレイ演習② 使用するアイテムを手配する。ディスプレイ小物の作成。	予習：マーケティング資料の準備。 100円ショップで必要な小物購入。	45分
9回	ウィンドウディスプレイ演習③リアルサイズで制作。 完成までのスケジュール表作成。予算の組立て。	予習：壁面、床の素材を集める。	45分
10回	ウィンドウディスプレイ演習④ 壁面・床を作成。	予習：衣装、ファッション雑貨の準備。	45分
11回	ウィンドウディスプレイ演習⑤ 衣装を準備しマネキンに着せる。 ファッション雑貨をコーディネート。	予習：ディスプレイ小物を自宅で制作。浅草橋のディスプレイショップ見学、及び小物購入。	45分
12回	ウィンドウディスプレイ演習⑥ 手作りで作ったディスプレイ小物を飾る。	予習：小物を自宅で制作。	45分
13回	ウィンドウディスプレイ演習⑦ 什器を用意、固定する。棚、テーブル、ステージなど。	予習：使用する布を購入する。	45分
14回	ウィンドウディスプレイ演習⑧ 什器など必要な物を準備及び配置。プレゼン準備。	予習：プレゼンテーションの練習。	45分
15回	ウィンドウディスプレイのプレゼンテーション⑨ 場所：日野校舎*冬休みの課題はVMD検定の指示	復習：プレゼンテーションの反省。 予習：VMD検定の補習。	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題提出のフィードバックは、授業内で講評、解説し返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

改訂版第3版国家検定 商品装飾展示技能検定 学科編 実技編 著書：日本ビジュアルマーチャндаイジング協会

■参考文献

VMD用語辞典 著書：日本ビジュアルマーチャндаイジング協会 発行：織研新聞社

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは、日野校舎B棟 B205 B101

■備考

ビジュアルマーチャндаイジング検定3級合格を目指します。

メディア表現Ⅲ（映像・ショープロデュース）

角倉 典彦・澤野 洋士

3年 後期 選択 （6単位 演習）

■授業の方針・概要

本講座は、映像制作会社の様々な制作現場でのアシスタント業務を経験する学外演習授業を主なものとする。全体を3期に分け、第1期は9月上旬に渋谷を中心に開催される東京コレクションウィーク(Rakuten Fashion Week Tokyo)の公式記録ビデオ撮影/制作と当日のライブ配信アシスタントを行う。また当日の各ショーの設営から本番までの運営次第も観察する。第2期は11月以降の1週間で、放送開始39年となるBSテレビ東京放送「ファッション通信」のポストプロダクションでの制作アシスタントを務める。指導は各プロデューサーやディレクター、カメラマンが行う。なおこの2週間は各日6～8時間のフルタイム演習となる。第3期はプロの現場での経験を活かし、現役の映像ディレクター指導による課題作品のグループ制作を行う。

■到達目標（学修成果）

ファッションを中心とした映像制作会社での基本的なアシスタントプロデューサー、アシスタントディレクターやアシスタントカメラマンの業務をOJTで経験把握し、学生本人にどの業務や職種に適性があるか自己判断ができるようになること。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

メディア表現専攻学生の卒業要件科目で、必修科目である。

■授業計画

回数	授業内容 (各8h)	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
第1期 1日目	角倉/実務スタッフ：東京コレクションのオリエンテーション。基本業務の流れの把握。スタッフ編成と総合進行表の理解（六本木）	復習：当日のスケジュール、業務内容を記録する	60分
	角倉/実務スタッフ：機材準備。機材の会場搬入、ケーブル敷設、機材セッティング。（渋谷）	復習：機材の理解	60分
	角倉/実務スタッフ：東京コレクション当日。1日数回のファッションショーやイベントの撮影記録。ネット生配信運営。ショー運営の観察。データ/納品物管理。（渋谷）	復習：当日の業務日誌と第1期のレポートの作成	各60分
第2期 1日目	角倉/実務スタッフ：「ファッション通信」のオリエンテーション。スタッフ打合せ、担当回の内容確認（六本木）	復習：資料のまとめ	30分
	角倉/実務スタッフ：ポストプロダクションにて映像編集。資料整理（六本木）	復習：編集確認	60分
	角倉/実務スタッフ：スタッフ打合せ、資料整理、構成作家打合せ。（六本木）	復習：打ち合わせ資料づくり	60分
	角倉/実務スタッフ：ポストプロダクションにて再編集、音効打合せ、ナレーション原稿作成チェック。（六本木）	復習：原稿校正	60分
	角倉/実務スタッフ：ポストプロダクションにてMA、ナレーション、音楽録音。完パケ試写。（六本木）	復習：修得したことをまとめる 第2期のレポート作成	120分
第3期 1週目	澤野：グループ制作① 課題提示、企画立案討議、スタッフ編成、リサーチ、構成案作成（日野校舎）	復習：構成案作成、リサーチ	120分
	澤野：グループ制作② 企画プレゼンテーション、構成台本作成、ロケーションハンティング、撮影準備(日野校舎)	復習：台本作成、ロケ香盤表作成	120分
	澤野：グループ制作③ 撮影（日野校舎）	復習：追加撮影	180分
	澤野：グループ制作④ 仮編集、本編集/MA（日野校舎）	復習：編集	180分
	澤野/角倉：グループ制作⑤ 仕上げ編集、プレゼンテーション、講評、著作権等処理リスト作成（日野校舎）	復習：各種資料作成整理	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

メール等を活用し、常時質問等を受け付ける。レポートは添削してメールにて返却をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	20%

■教科書 特になし

■参考文献 その都度配布

■オフィスアワー・研究室

基本的に学外演習先企業担当者（初日に説明します） ㈱インファス・ドットコム事務所

研究室：日野校舎 B105 映像・メディア表現研究室

■備考 授業日以外の事前ガイダンスは必ず参加すること。スケジュール等を確認します。

Word、Excel、PowerPoint、Premier Pro の基本操作ができること。

服飾手芸（ニットを含む）

岡本 真希子

3年 前期又は後期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

編物の代表的な三つの技法 かぎ針編み、棒針編み、アフガン編みについて、基礎的な技法を習得します。それぞれの技法に合わせた、作品を作る為に必要な増減法、とじ、はぎ、素材の特徴に合った組み合わせや編み方を学び、作品作りに活かせるように学びます。

■到達目標（学修成果）

かぎ針編み、棒針編み、アフガン編みの基礎技法を学び、理解する。編目記号図（JIS 記号）を理解する。かぎ針編みでは、モチーフを編む。棒針編みでは、身につける作品の制作を進めながら、制作に必要な知識を得る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	かぎ針編み：針の持ち方、基礎編み（鎖編み、細編み、長編み、等）	復習：その日に習った技法の復習（長編み、細編みが編めるように）	60分
2回	かぎ針編み：モチーフを作成	復習：その日に習った技法の復習 モチーフ1枚めを完成させる	60分
3回	かぎ針編み：モチーフをつなぐ	復習：その日に習った技法の復習 モチーフをつなぎ完成させる	60分～
4回	棒針編み：針の持ち方、基礎編み（作り目、表編み、裏編み、伏せ目）	復習：その日に習った技法の復習（表編み、裏編みを練習する）	60分
5回	棒針編み：基礎編みのサンプル作成（編み込み模様2種類 等）	復習：その日に習った技法の復習 基礎編みのサンプルを完成させる	60分
6回	棒針編み：基礎編みのサンプル作成（表目と裏目の模様、透かし模様）	復習：その日に習った技法の復習 基礎編みのサンプルを完成させる	60分
7回	棒針編み：基礎編みのサンプル製作（交差模様、ねじり1目ゴム編み 等）	復習：その日に習った技法の復習 基礎編みのサンプルを完成させる	60分
8回	棒針編み（応用課題作品）：作品制作に向けての説明とじ・はぎをパターンで練習する。	応用課題作品の制作に向けて何を考えるか考えてくる	30分
9回	アフガン編み：針の持ち方、基礎編み（プレーンアフガン）	復習：その日に習った技法の復習 応用課題作品の制作に向けて準備する	60分～
10回	アフガン編み：基礎編みのサンプル作成（かのご模様、ねじり目模様 等）	復習：その日に習った技法の復習 応用課題作品の制作に向けて準備する	60分～
11回	棒針編み（応用課題作品）：作品制作に向けての相談	応用課題作品の制作を始める	60分～
12回	棒針編み：応用課題作品を進めながら、提出した基礎編みサンプルの再確認 等	応用課題作品の制作を始める	60分～
13回	棒針編み：応用課題作品を進めながら、提出した基礎編みサンプルの再確認 等	応用課題作品の制作を始める	60分～
14回	棒針編み：応用課題作品 提出	復習：基礎編みサンプルの復習	60分～
15回	まとめ：課題のフィードバックを行う	復習：基礎編みサンプルの復習、とじはぎ仕上げ方の復習	60分～

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題として、かぎ針編みモチーフつなぎ、棒針編みの基礎編みサンプル、アフガン編みの基礎編みサンプル、を提出。添削後、順次返却します。

棒針編みの応用課題作品を提出

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	かぎ針編みモチーフつなぎ、基礎編みのサンプル課題 棒針編みの応用課題作品
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

いちばんよくわかる 新・かぎ編みの基礎 / いちばんよくわかる 新・棒針編みの基礎 /

いちばんよくわかる アフガン編みの本

併せて必要に応じて、プリントを配布しますので、ファイリングをして常に授業に携帯してください。

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課 出講日：金曜日

■備考 なし

リテールマーチャンダイジング

田邊 潤一

3年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

- ・全てのリテールビジネスの基本・根幹であるマーチャンダイジングの概要理解を軸に、担当講師自身の27年の百貨店実務経験に基づく知見を活かし実践事例に触れながら、具体的な計画に繋がる構成要素を一連の流れで体系的に学びます。
- ・通して受講することで、自身が考えるショップコンセプトや品揃え、ビジネスとしての捉え方を具体的にイメージできるようになり、様々な切口からリテールビジネスの企画立案・計画実務に活かすことができるようになります。

■到達目標（学修成果）

- ・リテールビジネスの基礎を習得し、あらゆる職種で自主的なショップ計画ができる体系的な理解を目指す。
- ・マーチャンダイジング基礎理論の習得と、自身の自由な発想と独自性の発揮双方の、バランスの取れた学びを目指す。
- ・本科目ではグループワークを含むアクティブラーニングを実施します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、あらゆるファッションビジネスで活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	マーチャンダイジングとは リテールマーチャンダイジングの意味と目的・そのフロー	予習：シラバスの確認 復習：あなたがFBを通しやりたいこと	30分 15分
2回	リテールの歴史とマーチャンダイジングの変遷 業態発展の歴史・市場を取巻く環境変化・トレンドと未来	予習：マーケティングトレンドの想像 復習：好きなファッションとその理由	15分 15分
3回	グループディスカッション 私の好きなお店・やってみたいお店 その理由	予習：課題指示に従い事前構想記述 復習：演習成果物の振り返り	120分 15分
4回	マーチャンダイジングの体系Ⅰ「誰に」 マーケティング戦略・顧客戦略・顧客分類・顧客満足	予習：自分が狙いたい顧客像の想像 復習：顧客設定項目の振り返り	15分 15分
5回	顧客設定演習	予習：顧客設定項目の予習 復習：演習の振り返り	15分 15分
6回	マーチャンダイジングの体系Ⅱ「何を」 商品計画・商品分類と展開分類・商品量・価格	予習：自分が商売したい商品の想像 復習：基本設定項目の振り返り	15分 15分
7回	商品分析演習	予習：自分が好きな商品を設定 復習：演習の振り返り	15分 15分
8回	マーチャンダイジングの体系Ⅲ「いつ」 期間区分・季節区分・シーズンMD計画	予習：季節の区分を想像 復習：あなたが好きな季節とアイテム	15分 15分
9回	マーチャンダイジングの体系Ⅳ「どこで」 チャネル・立地・場所・「どこで」の変化	予習：馴染の街の立地特性を想像 復習：出店したい場所の立地を想像	15分 15分
10回	マーチャンダイジングの体系Ⅴ「どのように①」 購買意欲を高める場づくり・商空間特性・VMD	予習：好きな店の空間特性を考察 復習：作ってみたい商空間を想像	30分 15分
11回	マーチャンダイジングの体系Ⅴ「どのように②」 購買意欲を高めるシカケ・販売促進・メディア	予習：好きな店のシカケ方を考察 復習：あなたがやってみたい媒体戦略	30分 15分
12回	マーチャンダイジングの体系Ⅵ「なぜ」 自分の店の存在意義とその理由・現状分析・理念	予習：好きな店の理念を考察 復習：自分自身の理念を考察	30分 15分
13回	マーチャンダイジングの体系Ⅷ「販売サービス」 販売サービスの構成・販売管理・販売行動・しくみの変化	予習：自分の印象に残る接客を考察 復習：実践したい販売サービスを想像	15分 15分
14回	ストアプラン演習 私のマーチャンダイジングコンセプト計画・提出	予習：課題指示に従い課題の事前構想 復習：演習成果物の振り返り	60分 15分
15回	ストアプラン演習 私のマーチャンダイジング詳細計画・提出	予習：課題の事前構想 復習：将来の自身の仕事の具体的想像	60分 15分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

自分の理想の商売としてのマーチャンダイジング計画を演習で作成し提出。課題用紙はmanabaにも掲載。希望者には返却。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書なし。毎回学習資料を配布します。授業は講師作成のパワーポイント教材による講義と各種演習となります。

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

出校日：水曜日午後 FB 研究室：第3校舎4階(3402教室)にて16:20～17:50まで

■備考

なし

ショップディスプレイ

石井 健太

3年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

講師の実際の仕事例を紹介しながら、ショップディスプレイ/デザイン/マーケティングの考え方を学んでゆく。

■到達目標 (学修成果)

ショップディスプレイとは企業戦略を視覚化する仕事。ショップの企画立案から実際の設計までを授業内で完成させる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の単位で卒業要件となります。「ショップディスプレイ」は、空間演出の基礎力とビジネスの基礎知識の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読む。特に内容がわからないところは授業で質問すること	30分
2回	VMDとショップディスプレイ	復習：本日の授業内容を再確認する	30分
3回	ショップの原点の確認 モロッコ/明治日本より	予習：指定動画の確認	30分
4回	ショップの原点の確認 アメリカ/昭和日本より	予習：指定動画の確認	30分
5回	ショップの原点の確認 トルコより	予習：指定動画の確認	30分
6回	世界の百貨店の成り立ちの確認 フランスより	予習：指定動画の確認	30分
7回	ショップの企画書作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
8回	ショップの企画書作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
9回	ショップの企画書作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
10回	ショップの図面作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
11回	ショップの図面作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
12回	商品ディスプレイプランの作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
13回	イメージパース作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
14回	資料作成	予習：発表の事前準備	30分
15回	総評	予習：発表の準備	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

発表、レポートについては、講評・ディスカッションを行いフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	60%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

プリント配布

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

基本的には授業終了時【前期】出講日：木曜日 【後期】出講日：月曜日

連絡先：本校舎一階教務課

■備考

パワーポイントでデータを加工し発表するため12回目以降コンピュータールームで授業が入る

服飾クラフト

永田 貴恵子

3年 前期又は後期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

手芸 (Hand Craft) は、世界各地で古い昔から行われその土地の生活様式に合った特有の色や模様が作り出されて来ました。本授業では様々な刺しゅうの知識を深め、基礎となる刺繡の材料 (布・糸・針など) の扱い方や技法を学びます。

■到達目標 (学修成果)

様々な刺しゅうを学び基本的な技法が習得出来ます。刺しゅう小物を制作して生活の中にデザインを取り入れられるようにすることを目標とします。また、図案を構成し刺しゅう技法を組み合わせる応用力をつけることも目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門の選択科目で卒業要件単位となり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	様々な刺しゅうを知る 刺しゅう材料 (布・糸・針等) の取り扱い方 図案の写し方 フランス刺しゅう基礎の準備 サンプラーの制作	予習: シラバスを読む 復習: フランス刺しゅう基礎の確認	10分
2回	フランス刺しゅう基礎 アウトラインS バックS ランニングS チェーンS パリオンS等	復習: アウトラインS バックS ランニングS チェーンS パリオンS等の確認	10分
3回	フランス刺しゅう基礎 ブランケットS レイジーデージーS フレンチノットS サテンS等	復習: ブランケットS レイジーデージーS フレンチノット サテンS等の確認	10分
4回	ビーズ・スパンコール刺しゅう ビーズ・スパンコール刺しゅうの基礎	復習: ビーズ・スパンコールの確認 予習: 自由図案を考える	10分
5回	ミラーワーク、リボン刺しゅう ミラーの留め方 リボン刺しゅうの基礎 自由図案による刺しゅうの制作	復習: ミラーの留め方、リボン刺しゅうの確認	10分
6回	刺しゅうの応用制作 刺しゅうの仕上げ	復習: 刺しゅう応用制作のステッチの確認	10分
7回	クロスステッチ ピンクッションの制作 クロスステッチの基礎	復習: フランス刺しゅう基礎の整理 予習: クロスステッチの図案を考える	10分
8回	クロスステッチ クロスステッチの針の動き方 糸の替え方 糸の始末の仕方	復習: クロスステッチの刺し方糸の替え方、 糸の始末の仕方の確認	10分
9回	クロスステッチ 仕立て方、とじ方	復習: クロスステッチの仕立て方、とじ方の確認	10分
10回	クロスステッチ 仕上げ	復習: クロスステッチの基礎の整理	10分
11回	スモッキング刺しゅう スモッキングバッグの制作 スモッキング刺しゅうの基礎	復習: スモッキング刺しゅう基礎の確認	10分
12回	スモッキング刺しゅう ダイヤモンドSの刺し方	復習: ダイヤモンドSの確認	10分
13回	スモッキング刺しゅう 糸の替え方、糸の始末の仕方。	復習: 糸の替え方、糸の始末の確認	10分
14回	スモッキング刺しゅう 仕上げ方	復習: スモッキング刺しゅうの整理	10分
15回	授業で制作した作品の様々な刺しゅう基礎刺しの確認と刺しゅうの知識を整理する。	復習: 授業で制作した作品の様々な刺しゅう基礎刺しの確認を行う。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

作品返却時にその都度講評をします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業時に適宜プリントを配布します。

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

出講日: 金曜日 連絡先: 教務課

■備考

別途教材費がかかります。

インターンシップ

笹部 小百合

2・3年 集中 選択 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。企業でのインターンシップ生教習実務経験を基に指導し、自ら社会で活躍できる人材になろうとする意識強化を目指します。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明、研修について（グループワーク）	予習：企業について研究する	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
14回	事後授業：企業研修の振り返り（グループワーク） 報告会に向けてのプレゼンテーション資料準備	復習：報告書作成と報告会に向けての準備	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会でのプレゼンテーション（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を授業内や学内システム（manaba）でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	50%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）または2年生春休み（評価は3年前期）で10日以上。
研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県。

民族衣裳論

梅谷 知世

3年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

世界各地の民族服飾はそれぞれの自然環境や文化環境の中で生まれ、時代とともに変化しながら今日に受け継がれてきました。この授業では、アジアを中心にアメリカやヨーロッパなど世界の民族服飾を取り上げ、人びとの手仕事によってつくられてきた民族服飾の形、素材、織・染め・刺繍などの技法、文様について学びます。また、民族服飾がどのような背景の中で成立し変化してきたのか、そして、民族服飾が民族にとってどのような意味をもつのかという問題について、背景にある気候風土や暮らし、信仰、異文化交流などを含め多様な視点から考えていきます。

講義形式で進めますが、適宜、教員からの質問についてグループ内でのディスカッションを行います。

■到達目標（学修成果）

- 1、民族服飾の多様なあり方を知り服飾文化に対する視野を広げる。
- 2、民族服飾の成立・変化と自然環境・文化環境との関係性や、民族服飾の意味について理解する。
- 3、民族服飾を通して世界の異文化への関心を深める。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	民族服飾とは何か	予習：シラバスを読み授業概要を理解する。	30分
2回	民族服飾を学ぶ視点	復習：参考文献を図書館で確認する。	90分
3回	アメリカの民族服飾（グアテマラ）	予習：グアテマラの気候風土とマヤの歴史を調べる。	90分
4回	東アジアの民族服飾（中国・旗袍）	予習：近代中国の歴史について調べる。	90分
5回	東アジアの民族服飾（中国・少数民族）	予習：中国の少数民族の居住地域を確認する。	90分
6回	博物館見学	復習：博物館見学のレポートを作成する	120分
7回	東アジアの民族服飾（アイヌ）	予習：アイヌ民族の歴史について調べる。	90分
8回	東アジアの民族服飾（琉球）	予習：琉球王国と近現代沖縄の歴史について調べる。	90分
9回	東南アジアの民族服飾（ラオス）	予習：ラオスの気候風土と歴史について調べる。	90分
10回	南アジアの民族服飾（インド）	予習：インドの気候風土と歴史・宗教について調べる。	90分
11回	南アジアの民族服飾（インド西部）	予習：インド西部の気候風土について調べる	90分
12回	西アジアの民族服飾（サウジアラビアなど）	予習：西アジアの気候風土と宗教について調べる。	90分
13回	ヨーロッパの民族服飾（スコットランド）	予習：スコットランドの気候風土と歴史を調べる。	90分
14回	ヨーロッパの民族服飾（東欧）	予習：ブルガリアとルーマニアの気候風土と歴史を調べる。	90分
15回	まとめ	復習：これまでの授業内容を振り返り十分理解する。	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内課題や期末レポートについて、フィードバックを次回授業時、またはmanabaで行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献

国立民族学博物館編『国立民族学博物館展示案内』（2017） その他の参考文献は授業時に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

研究室：研究棟 6042A オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。

■備考 世界各地の民族に関心を持ち、新聞やインターネットの報道に注意するようにしてください。美術館や博物館に足を運び、民族服飾の実物を見学する機会を持つよう心がけてください。

染織史

大久保 尚子

3年 後期 選択 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日本の染織技法の種類と歴史的展開を、意匠との関係、海外との影響関係にも注目して学習します。各時代に特徴的な染織意匠を文化的背景とともに紹介します。映像資料と実物資料を提示し技法、意匠の特色を体験的に学習し、展覧会見学を通し知識に基づく作品理解を深めます。

■到達目標 (学修成果)

- ・歴史上にみられる染織技法について、技法による表現効果の違い、意匠との関係に注目して理解し、自ら具体的な作品例をとりあげ技法と意匠の特徴について説明できる。
- ・意匠と同時代文化との関係について理解を深め、授業で示した資料を活用し説明することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。また、学芸員資格取得のための学芸員課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	染織 (テキスタイル) の歴史と現代の服飾の関係 (ディスカッション) / 手仕事と機械工業 / 「織り」の技法、「染め」の技法	予習: 日本の伝統染織作品や関連情報 (図書、報道等) に触れる。 復習: 授業時に示す復習課題に取り組みmanaで解答する。	40分
2回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法① 天然素材による糸、織機の仕組み 織物の基本組織	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
3回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法② 綾、羅、錦 / 正倉院の染織品にみる唐風の受容	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
4回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法③ 縫い取り織 (二陪織物、唐織)、縹子織 (緞子、綸子) / 有職織物と名物裂	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
5回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法④ 緋、縞、綴 / 近世における外来染織の受容	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
6回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法① 描絵、摺絵、絞り染め、板締め / 天然染料の染色、江戸時代小袖の復元	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
7回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法② 糊防染①型染 (小紋、中形) / ジャポニスムと染色型紙	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
8回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法③ 蠟防染 (腸纈、更紗)、糊防染②友禅染め / 更紗のグローバルな影響	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
9回	日本の染織技法の種類と歴史 博物館見学① 染織作品の実地見学	予習: 展示資料情報、特に技法について確認。復習: 見学レポートに取り組む。	40分
10回	日本の染織技法の種類と歴史 博物館見学② 染織作品の実地見学。質疑応答と見学レポート	予習: 展示資料情報、特に技法について確認。復習: 見学レポートに取り組む。	40分
11回	日本の染織技法の種類と歴史 まとめ 日本の染織の歴史展開、服飾史との関係/技法と意匠の関係/ 染織技術の近代化	予習: これまでの資料に再度目を通す。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
12回	近世の染織意匠① 友禅風意匠と友禅染の成立	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
13回	近世の染織意匠② 光琳文様と琳派の意匠	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
14回	近世の染織意匠③ 山東京伝の見立て小紋と江戸の意匠	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
15回	近代の染織と意匠 染織技術革新と意匠・ジャポニスムとヨーロッパのデザイン運動・日本のデザイン運動 まとめ	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

毎時の復習課題や質問にはmanaを利用します。フィードバックは次回授業時、またはmanaで行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

教科書は用いず、配布資料プリントによって授業を進めます。

■参考文献

小笠原小枝『染と織の鑑賞基礎知識』至文堂 1998年、河上繁樹、藤井健三『織りと染めの歴史』昭和堂 1999年

■オフィスアワー・研究室

前期: なし 連絡先: 本校舎一階教務課 後期 授業のある金曜日 (14時~14時30分) 第3校舎講師控え室

■備考

プリントはテキスト同様に使用します。毎回必ず持参してください。

博物館見学の実施回、状況により変更する場合があります。詳細は授業時に指示します。

ファッション・プレゼンテーション演習

児島 やよい

3年 前期 選択 学芸員課程必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションについて、ここでは、アートおよび生活文化全般との関わりにおいて幅広く扱う。授業担当者の約30年に渡る現代美術やデザインをカバーするキュレーター、ライターとしての実務経験を踏まえて、美術館、ギャラリーや多様な展示施設での多ジャンルの展覧会の事例を提示、見学、解説する。見学の際には担当学芸員やアーティストとも対話する機会を設ける。それをもとにグループワークやディスカッションを行い、時代に求められる新しい生活様式を考え、創造に活かす視点を学ぶ。その上で、各自が展覧会企画を構想、プレゼンする演習を行い、豊かな自己表現としてのファッションを探求し、説得力のあるプレゼンテーションの方法を身に付ける。

■到達目標 (学修成果)

本授業では、展覧会や教育プログラムのリサーチや企画、実施までの過程を知り、ファッションを通していかに新鮮な主張を発信するかを学ぶ。こうした実務を知り、多様な展覧会を見学・考察することで、学芸員が展覧会を企画する構想力、研究・分析の成果から導かれる新たな視点を活かす手法や基本的なプロセスを理解し、それを具体化する方法を身につけることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。また、学芸員資格取得のための学芸員課程の必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション。展覧会・教育プログラムの調査、企画・実施の実務につき概要を解説する。(見学先は本授業のテーマに合う展示・教育プログラムの中で、評価の高い候補会場との交渉を経て決定する。以下の予定は先方の関係等により変更することがある。)	予習：シラバスを読んでおく。 これまで鑑賞した展覧会の概要を振り返り、発表できるようにメモにまとめておく。	60分
2回	展覧会等企画書作成の概要を解説する。 見学①教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
3回	展覧会企画書のための準備書作成。 見学② 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
4回	展覧会企画の実務について解説する。 見学③ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
5回	見学④ 教室に集合し、見学内容を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
6回	見学⑤ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
7回	見学⑥ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
8回	中間プレゼンテーション、企画書提出。ディスカッション。アクティブ・ラーニング	予習：中間プレゼンテーション、企画書を作成する。	60分
9回	見学⑦ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
10回	見学⑧ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
11回	見学⑨ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
12回	見学⑩ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：期末プレゼンテーションの準備。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
13回	見学についての全体まとめ、ディスカッション。 グループワーク、期末プレゼンテーションの準備。	予習：復習：企画書プレゼンテーションの準備。	60分
14回	展覧会・教育プログラム企画書のプレゼンテーション、グループディスカッション。アクティブ・ラーニング	予習：企画書内容のブラッシュアップ、プレゼンテーションの準備。復習：ディスカッションの振り返り。	60分
15回	期末プレゼンテーション、グループワーク。見学・授業全体のまとめ、ディスカッション。	予習：これまでの見学内容を振り返る。プレゼンテーションの準備。	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

Manabaにて見学レポート、課題プレゼンに対するフィードバック。また今後の課題、次回見学、授業の内容を掲示する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	40%
外部評価・検定試験結果	0%

ディスカッション、グループワークへの参加度。
見学レポート、中間プレゼンテーション。
期末プレゼンテーション (グループワーク)。

■教科書 特に指定しない

■参考文献 授業時に指示する

■オフィスアワー・研究室 前期 土曜日 (2時～2時40分) 本校舎1階教務課

■備考 できるだけ多くの展覧会、映画、舞台、映像などに触れるようアンテナを張ってください。

食物学（食品学）

山田 奈緒子

3年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

様々な食品についてその特徴や栄養成分、保存方法、鮮度の見極め方、調理法などについて解説する。また食品表示法など食に関連する法律や食品衛生、食に関する諸問題（食料自給率や食品ロス、遺伝子組み換え食品など）についても解説する。現代の食に関する諸問題を知ること、食や健康、安全に関する情報を読み解く基礎的な力を養い、実際の食生活をより良いものにしていくことを目指す。

■到達目標（学修成果）

- ①それぞれの食品の特徴を理解し、目的に合わせた適切な選択ができる。
- ②食品表示法、食品衛生の知識をもとに適切な食品の選択をし、安全な食品の取り扱いや保存、調理ができる。
- ③様々な情報に惑わされることなく、情報を冷静に分析し、日常生活で応用できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定は、専門選択単位（ライフスタイル関係）となる。学位授与の方針については、「食物学（食品学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	食品表示法について① 食品表示法の概要	復習：食品を購入する際に気をつけていることについて考えをまとめる。	30分
2回	食品表示法について② 期限表示と食品ロスについて、食物アレルギーとその対処法	復習：食品ロスについて、自分に出来ることを考える。	30分
3回	食品表示法について④ 有機表示と遺伝子組み換え	復習：遺伝子組み換え食品についてレポートを作成する	30分
4回	食品表示法について④ 栄養成分表示と保健機能食品（トクホ、機能性表示食品等）	復習：保健機能食品の活用について考える。	30分
5回	食品衛生について① 手洗い実験の実施 手洗いの注意点、食中毒の種類と原因について	復習：手洗い・食中毒についてレポートを作成する。	30分
6回	食品衛生について② さまざまな食中毒とその症状および予防法について	復習：食中毒の原因菌の特徴をまとめる。	30分
7回	乳・乳製品の特徴と栄養価、選び方、調理上の注意点	復習：牛乳の特徴についてレポートを作成する	30分
8回	肉類の種類と特徴について	復習：授業の復習	30分
9回	肉類の栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：肉類の調理の特性についてレポートを作成する	30分
10回	魚介類の特徴について	復習：授業の復習	30分
11回	魚介類の栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：魚介類の調理の特性についてレポートを作成する	30分
12回	卵、豆類、芋類の特徴と栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：授業の復習およびじゃがいもの特性についてレポートを作成する	30分
13回	米製品と小麦製品の特徴と栄養価について	復習：授業の復習および米の調理性についてレポートを作成する	30分
14回	野菜の特徴と栄養価、色素、褐変について	復習：授業の復習および野菜の色素についてレポートを作成する	30分
15回	果物の特徴と栄養価、色素、追熟等について	復習：授業の復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートの返却及び講評は15回目の授業内で行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるので注意する。 *授業内で扱ったテーマについてレポート作成をする。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

「白熱教室 食生活を考える」 編著者 金子佳代子/松島悦子 アイ・ケイ・コーポレーション (2,400円)

■参考文献

授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考 なし

住居学（製図を含む）

萬羽 郁子

3年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

住居学に関する基礎的知識の習得を目指し、まず、住居の役割や機能に説明する。次に、住居の歴史の変遷について概説し、間取り・生活の変化や室内環境について学習する。後半には、住まいの安全や住まいの計画（製図を含む）について学習し、健康・快適・安全な住まいについてまとめる。

■到達目標（学修成果）

人間生活の器である住居の役割を理解し、住生活に関して居住者として必要な基礎的知識を身につける。住居の役割と機能、住居の歴史の変遷と生活の変化、室内の環境整備の必要性や維持管理方法について理解する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択科目の単位である。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、「住居学」は専門コースに拘らず選択することができ、専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：住居とは、授業計画 住居の役割と機能（グループワーク）	予習：シラバスを読む。中・高家庭科教科書の関連内容を確認する。	30分
2回	気候風土と住まい（プレゼンテーション）	予習：日本・世界の住まいについて調べる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	60分 30分
3回	住宅・住生活の変遷①：古代～中世	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
4回	住宅・住生活の変遷②：近世の住宅（グループワーク）	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
5回	住宅・住生活の変遷③：近代～現代	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
6回	環境と住生活①：温熱環境	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
7回	環境と住生活②：空気・音・光環境	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
8回	住まいの安全①：高齢者を取り巻く環境・バリアフリー	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：自宅のバリアフリー調査を行いレポートにまとめる。	30分 60分
9回	住まいの安全②：家庭内事故の予防・ユニバーサルデザイン	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
10回	住まいの安全③：防災	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
11回	住まいの選択と管理	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：住宅の選択に関する課題に取り組む。	30分 60分
12回	住まいの計画①：平面図	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：製図課題の続きを行う。	30分 60分
13回	住まいの計画②：家具配置	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：家具配置課題の続きを行う。	30分 60分
14回	住まいの計画③（プレゼンテーション）	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
15回	まとめと振り返り（小テスト・レポート）	予習：これまでの学習内容を確認する。 復習：振り返りレポートを作成する。	60分 30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業中に小テスト、レポート、演習課題など返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 授業時に指示する。

■参考文献

住まいとインテリア研究会 編：図解住まいとインテリアデザイン，彰国社
水村容子・井上由起子・渡邊美樹 編：私たちの住まいと生活，彰国社
定行まり子・沖田富美子 編著：生活と住居，光生館

■オフィスアワー・研究室

前期：なし 後期：土曜日 第3校舎講師控室（第3校舎1階）

■備考 2コマ連続（7・8限と9・10限）で行う場合があります。詳細は初回授業で説明します。

保育学（実習及び家庭看護を含む）

川崎 理香

3年 後期 選択 （2単位 講義）

■授業の方針・概要

保育学においては、子どもの発達や子どもの他者への関わりについて、担当教員の幼稚園教諭・保育士の実務経験から具体例を聞き、幼児理解の姿勢を学ぶ。また知識だけでなく、自らが活動を体験することにより保育技術の向上を目指し、グループワークやプレゼンテーションによる学び合いによって保育者の役割や子どもへの理解を一層広げたり深めたりする。

■到達目標（学修成果）

- ・乳幼児期の発達を理解できるようになる。
- ・乳幼児期の子どもたちが、出会う身近な存在である人的環境や物的環境との関わりを知ることができる。
- ・教材研究を通して子ども理解を深めることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択科目の単位となる。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、「保育学」は専門コースに拘らず選択することが出来、社会基礎力の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 保育とは何か	予習：シラバスを読む。保育とは何かについて自分なりに考えをまとめる	30分
2回	乳児の発達の姿と保育	予習：子どもが誕生してから乳児期の発達について調べる	30分
3回	3～5歳児の成長・発達と保育	予習：幼児期の成長・発達について調べる	30分
4回	保育者の役割	予習：保育者についてのイメージや役割について考えをまとめる	30分
5回	5領域の目標とねらい・内容 幼児教育施設の違いについて	予習：子どもの育ちの側面からとらえた5領域について調べる	30分
6回	遊びを通しての総合的な指導	予習：子どもにとって遊びとはどのような意味を持つのか、考えをまとめる	30分
7回	環境を通して行う保育・教育	予習：社会の状況に応じて変化してきた子どもを取り巻く環境について考える	30分
8回	一人一人の発達に応じた指導	予習：「個」が生きる集団作りのために個と集団の関係を、どのようにとらえたらよいのか考える	30分
9回	事例研究①幼児理解を深める…グループ協議	予習：特別な支援を必要とする子どもとの関わりについて、自分の体験を通して考える	30分
10回	同じ遊びの目的や課題を持つ友達が協力して展開する活動	予習：誕生会などでの出し物について教材研究しておく	30分
11回	教材研究①行事の出し物の展開を考える…グループ協議	予習：出し物に応じた教材準備、役割分担、練習をする	30分
12回	教材研究②模擬保育…グループ発表・評価・反省	予習：出し物の発表が出来るように練習しておく	30分
13回	伝統行事・伝承遊び	予習：体験したことのある伝統行事や伝承遊びについての振り返りをする	30分
14回	事例研究②保育者の援助を考える…グループ協議 生きる力の基礎及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	予習：保育者の具体的な役割を事例について分析・考察しておく	30分
15回	まとめ	予習：14回目までの授業の内容の復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業のはじめに前回の授業の振り返りを行う。授業の終わりに振り返りシートを記入し、授業内容の理解の深まりを確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 毎回レジュメを配布する。

■参考文献

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各解説書

■オフィスアワー・研究室

前期：なし 連絡先：本校舎1階教務課
後期：土曜日（9時00分～10時40分）本校舎1階教務課

■備考

なし

食文化論

山田 奈緒子

3年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日本の特色ある食文化を、地理、気候、歴史、文化、社会的側面から解説する。さらに食べる機会の多い中国・フランス料理等の食文化、宗教と食の禁忌についてもとりあげ、互いの食文化にどのように影響を与えてきたかを学ぶ。また社会人として知っておくべき食事マナーについても解説する。

■到達目標（学修成果）

- ①日本の食文化の特徴、他国の食文化の特徴について理解し、説明できる。
- ②食文化に対して自分の考えを述べることができる。
- ③各国の料理や日常の食事において、マナーを守ることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定については、専門選択単位（ライフスタイル関係）である。学位授与の方針については、「食文化論」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	食文化とは 共食の意義について	復習：配布資料を読む、共食の意義についてレポートを作成する	30分
2回	和食の歴史と特徴① 日本の食文化について	復習：配布資料を読む、日本の食文化についてレポートを作成する	30分
3回	和食の歴史と特徴② 日本の郷土食について	復習：自身の地元につながる郷土食についてレポートを作成する	30分
4回	和食の歴史と特徴③ 五節句と主な通過儀礼食について	復習：和食の歴史についてレポートを作成する	30分
5回	和食の歴史と特徴④ 本膳料理、精進料理、茶懐石料理について	復習：日本料理の成り立ちについてレポートを作成する	30分
6回	和食の歴史と特徴⑤ 菓子の歴史について	復習：配布資料を読む	30分
7回	和食のマナーとテーブルセッティング 会席料理のマナーと箸使いについて	復習：箸の使い方・マナーについてレポートを作成する	30分
8回	宗教と食の禁忌 イスラム教、その他の宗教での食の禁忌について	復習：宗教と食の禁忌についてレポートを作成する	30分
9回	フランス料理の歴史と特徴① フランス料理の誕生、使用される食材について	復習：フランス料理についてレポートを作成する	30分
10回	フランス料理の歴史と特徴② フランス料理、マナーについて	復習：フランス料理についてレポートを作成する	30分
11回	中国料理の歴史と特徴① 中国料理と日本料理の比較、中国四大料理について	復習：中国料理についてレポートを作成する	30分
12回	中国料理の歴史と特徴② 中国四大料理、飲茶、マナーについて	復習：中国料理についてレポートを作成する	30分
13回	韓国料理の歴史と特徴 韓国料理が誕生するまで、様々な料理について	復習：韓国料理についてレポートを作成する	30分
14回	食文化を学ぶ意義について、 グループディスカッションを通して考える	予習：これまで学んできた各国の食文化について振り返る	30分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等）のフィードバックを含む	復習：試験内容を振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

試験を含む授業のまとめは15回目の授業内で行う。レポートは確認、添削後に授業内で返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるので注意する。 *授業内で扱ったテーマについてレポート作成をする。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

プリントを配布する

■参考文献

日本の食文化「和食」の継承と食育（新版） 編著者 江原絢子・石川尚子 アイ・ケイ・コーポレーション

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002調理実習室内

■備考

なし

食物学（調理実習・実験）Ⅰ

山田 奈緒子

3年 前期 選択 (1単位 実験・実習)

■授業の方針・概要

実習室の都合上、人数の制限を設ける場合がある。その場合、教職履修者を優先的に受け入れる。

この授業は、単に料理を作って食べるだけの授業ではない。確かな調理技術・理論の定着のために調理を科学的な側面からも捉えられるようになることを目指す。前期は調理法別にその特徴を学び、各調理法を使用した代表的な料理を実習する。また、家庭科教員として安全で科学的な調理実習が運営できる力を身につけることを目指す。教職課程以外の学生は家庭科教員養成のための調理実習でもあることを理解した上で履修登録すること。調理実習に使用する食品を購入するために、**実習費を別途徴収する**。(昨年度は前期13,000円。履修者数および使用食材により変動あり。)またグループでの調理を行う。欠席は技術の習得ができないだけでなく、他の班員にも迷惑がかかるため、基本的には**欠席2回まで**とする。3回以上の欠席では別課題を課す。

■到達目標（学修成果）

- ①様々な食品を知り、食品を選択するポイント（鮮度や旬、栄養価など）と基本的な調理技術を身につける。
- ②美味しさを決めるポイントを理解し、安全かつ環境に配慮した調理、片づけができる。
- ③食事マナーや盛付、歴史など食の文化的な側面を理解し、説明・実践することができる。
- ④グループによる調理実習や実験を通して仲間とのコミュニケーション能力、協調性、責任感を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件は、専門選択単位（ライフスタイル関係）となる。学位授与の方針については、「食物学（調理実習・実験）Ⅰ」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、衛生について、計量の仕方	復習：レシピノートの作成	60分
2回	包丁の種類、持ち方・切り方について、切り方の練習	復習：レシピノートの作成	60分
3回	出汁の取り方 鍋を使った炊飯、煮干し出汁の取り方、簡単な和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
4回	出汁の取り方 かつお昆布だしの取り方、鍋を使った炊き込み飯について	復習：レシピノートの作成	60分
5回	茹でる（野菜） 緑黄色野菜のゆで方、これまでの調理法で和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
6回	炒める、寄せる 小麦粉を使用したルウの作り方、ゼラチンの扱い方	復習：レシピノートの作成	60分
7回	煮る 野菜の煮方の注意点	復習：レシピノートの作成	60分
8回	揚げる 揚げ物の注意点と衣の種類とその役割	復習：レシピノートの作成	60分
9回	焼く（肉） 肉の扱い方（筋切りについて）	復習：レシピノートの作成	60分
10回	焼く（ひき肉） ひき肉の扱い方、これまでの調理法で洋風献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
11回	焼く（魚） 切り身魚の扱い方	復習：レシピノートの作成	60分
12回	煮る これまでの調理法を用いた和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
13回	炒める これまでの調理法を用いた中華献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
14回	蒸す さまざまな器具を用いた蒸し方とその特徴	復習：レシピノートの作成	60分
15回	筆記試験 簡単な調理と実習室の清掃	復習：レシピノートの作成	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出されたレポートは授業内で添削し返却。レシピノートは指定日に調理実習室に来室の上、返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	*授業内で作った料理について、レシピノートを作成し提出する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 毎回プリントを配布する

■参考文献

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）、高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著）
「調理学実習-基礎から応用」 編著者 高橋敦子/安原安代/松田康子 女子栄養大学出版（3,300円）

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考 なし

食物学（調理実習・実験）Ⅱ

山田 奈緒子

3年 後期 選択 （1単位 実験・実習）

■授業の方針・概要

実習室の都合上、人数の制限を設ける場合がある。その場合、教職履修者を優先的に受け入れる。

前期開講の調理実習・実験Ⅰの内容を発展させた内容である。半期で調理技術が格段に向上するため、実習のレベルについていけるよう、この授業からの履修ではなく調理実習・実験Ⅰを履修してほしい。前期に学んだ基本的な調理技術と知識を応用して、和・洋・中華献立や和・洋菓子、行事食に挑戦する。また教職課程履修者は教育実習で調理実習を担当する場合もあることを念頭に、調理指導に必要なスキルを実践的に学ぶ必要がある。そのため学生が教員役となり切り方など簡単な示範を行うことで、必要な能力や態度を養う。教職課程以外の学生は授業の方針を理解したうえで履修すること。また、調理実習に使用する食品を購入するために、実習費を徴収する。（昨年度は後期 13,000 円。履修者数および使用食材により変動あり。）またグループで調理を行う。欠席は技術の習得ができないだけでなく、他の班員にも迷惑がかかるため、基本的には欠席 2 回までとする。3 回以上の欠席については別課題を課す。

■到達目標（学修成果）

- ①前期に身に付けた調理技術・知識をさらに高める。
- ②身に付けた調理技術、知識をもとに条件に合った調理の計画・実施ができる。
- ③家庭科教員として調理実習を運営するための基礎的な力を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択単位（ライフスタイル関係）となる。学位授与の方針については、「食物学（実践栄養学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	乾物を使った料理① さまざまな乾物の種類とその扱い方について	復習：レシピノートの作成	60分
2回	乾物を使った料理② さまざまな乾物の種類とその扱い方について、前期の復習	復習：レシピノートの作成	60分
3回	課題作成① 実技試験にむけて、厚焼き卵の練習をする	復習：レシピノートの作成、 厚焼き卵の調理レポートの作成	60分
4回	和食献立① 鰯の手開きの練習、和食献立に仕上げる	復習：レシピノートの作成、	60分
5回	洋食献立 小麦粉の調理特性を理解し、ホワイトソースについて学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
6回	小麦粉の調理性① 小麦粉の特性を活かしてピザをつくる	復習：レシピノートの作成	60分
7回	和菓子 練り切りを中心に、和菓子の作り方や特徴を学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
8回	和食献立② 鯨の三枚おろしの練習、和食献立に仕上げる	復習：レシピノートの作成	60分
9回	シュガークラフト シュガークラフトの技術でデコレーションを学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
10回	中華献立 春巻きを中心に、揚げ物の特性を学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
11回	パーティー献 班で話し合い、デコレーションについて学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
12回	正月料理 代表的なおせち料理について	復習：レシピノートの作成	60分
13回	小麦粉の調理性② 小麦粉の特性を活かしてうどんをこねる	復習：レシピノートの作成	60分
14回	課題作成② 実技試験にむけて、厚焼き卵の練習をする	復習：レシピノートの作成 厚焼き卵の調理レポートの作成	60分
15回	筆記・実技試験および清掃	復習：レシピノートの作成	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出されたレポートおよびレシピノートは指定日に来室の上、添削し返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	*授業内で作った料理について、レシピノートを作成し提出する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 毎回プリントを配布する

■参考文献

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）、高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著）
「調理学実習-基礎から応用」 編著者 高橋敦子/安原安代/松田康子 女子栄養大学出版（3,300 円）

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワーは初回の授業で連絡する。調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考 なし

言語と服飾文化

北澤 茉奈・安部 智子

3年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

服飾文化に関する題材を英語で読むことにより、その知識を深めるとともに、英文で書かれた内容を素早く正確に理解するための練習をします。内容は、1940～1950年代のパリ・オートクチュール (Christian Dior と Cristobal Balenciaga) についてのアカデミックな英語 (解説文) を扱い、語学としての英語と服飾文化の両方にフォーカスします。授業は、学生それぞれの英文解釈に対するフィードバックおよび解説、服飾に関する講義の形式で進めます。英文解釈は授業内に提出し、プロジェクターに投影する形で皆に共有します。授業毎に復習テストを実施し、前回内容と関連させながら新たな範囲を読み解いていきます。

■到達目標 (学修成果)

1. 英語で書かれた文章の構造を理解し、求められた情報を素早く見つけ正確に理解することができるようになる、2. 辞書や検索の結果から得た情報を自分の言葉でまとめ発信することができるようになる、3. パリ・オートクチュールについての知識を増やす、の3点です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目 (国際関係)・選択科目です。教養選択科目 (一般・体育・国際関係) 16単位は卒業要件です。教養科目としての言語と服飾文化は、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。復習：授業のタスクについて流れを整理する。	30-60分
2回	ディオールとバレンシアガについて	予習：テキストに目を通す。復習：復習テストに備える。	30-60分
3回	ディオールの生い立ちとデザイナーとしての初期	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
4回	バレンシアガの生い立ちとデザイナーとしての初期	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
5回	ディオールの性格・信念・デザインへのアプローチ	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
6回	バレンシアガの性格・信念・デザインへのアプローチ	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
7回	ディオールとバレンシアガのデザイン・スピリット	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
8回	ディオールとバレンシアガの制作プロセス	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
9回	バレンシアガのカッティングと構造	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
10回	ディオールのカッティングと構造	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
11回	バレンシアガのフォルム	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
12回	ディオールとバレンシアガの代表的ライン	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
13回	ディオールとバレンシアガのディテール	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る。	30-60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る。	30-60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

復習テスト、英文解釈は授業内で採点・解説を行います。まとめのテストは採点し返却を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	復習テスト、授業内課題 (英文解釈) の提出
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 Claire Wilcox 編 The Golden Age of Couture: Paris and London 1947-57 (V&A Publications)より

第6章 Dior and Balenciaga: A Different Approach to the Body (pp. 138-154)

■参考文献 必要があれば指示します。

■オフィスアワー・研究室 オフィスアワー：第1回目の授業で提示します。

連絡研究室：英語研究室 (研究棟3階6034)・服飾造形研究室 (研究棟3階6033)

■備考 テキストは、大型本のためコピーを用意します。

日本文化・日本事情Ⅰ

伊藤 高広

3年 前期 選択 留学生対象 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業です。
日本人とコミュニケーションをとるために必要な、日本の生活・習慣を紹介していきます。
教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解きます。
日本語検定対策の一助とします。

■到達目標（学修成果）

日本的な感性・考え方を理解することができるようになる。生活の中で日本の文化に親しむ。
日本の衣食住に関わる語彙を知る。伝統文化に親しむ。現代日本文化を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

外国人留学生の卒業要件科目で、教養必修科目です。
社会・文化の相互理解に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の方針・概要 必要に応じて日本文化を紹介する文章を書いて発表する等のアクティブラーニングを実施する	シラバスを読んでおく（予習）	30分
2回	日本の生活 災害から身を守る	資料を確認する（復習）web等を通じて資料を取得する。	30分
3回	日本の生活 衣食住① 服飾の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
4回	日本の生活 衣食住② 服飾の語彙	覚えた言葉を使ってクラスの日本人とコミュニケーションをとる。（復習）	90分
5回	日本の生活 衣食住③ 住居の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
6回	日本の生活 衣食住④ 住居の語彙	覚えた言葉を使って地域の日本人とコミュニケーションをとる。（復習）	90分
7回	日本の生活 衣食住⑤ 食物の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
8回	日本の生活 衣食住⑥ 食物の語彙	覚えた言葉を生活の場面で使う。（復習）	90分
9回	日本の文化 伝統文化① 和服	機会を設けて実物に触れてみる。（復習）	90分
10回	日本の文化 伝統文化② 芸能	機会を設けて実演を鑑賞する。または映像を鑑賞する。（復習）	90分
11回	日本の文化 伝統文化③ 文物	博物館等に行ってみる。（復習）	90分
12回	日本の文化 現代文化①	Webなどで情報を収集し整理する（復習）	90分
13回	日本の文化 現代文化②	イベントなどに積極的に参加する。（復習）	90分
14回	日本の文化 現代文化③	文化活動を通じて日本人と交流を深める。（復習）	120分
15回	まとめ	ひきつづき語彙力を高めるように勉強する。（復習）	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各階毎に課題を添削します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	20%

■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

■参考文献

必要に応じて指示する

■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する 文章表現研究室（研究棟1階）

■備考

特になし

日本文化・日本事情Ⅱ

伊藤 高広

3年 後期 選択 留学生対象 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業です。
日本文化・日本事情Ⅰにひきつづき、教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解きます。
時宜に応じた話題を選んで読んでいくので、授業内容は大体の目安です。

■到達目標（学修成果）

日本的な感性・考え方を理解することができるようになる。生活の中で日本の文化に親しむ。
日本の衣食住に関わる語彙を知る。伝統文化に親しむ。現代日本文化を知る。
2年次以降の授業に必要な、レポート・ポートフォリオの書き方を身につけます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

外国人留学生の卒業要件科目で、教養必修科目です。
社会・文化の相互理解に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の方針・概要 必要に応じて日本文化を紹介する文章を書いて発表する等のアクティブラーニングを実施する	シラバスを読んでおく（予習）	30分
2回	新聞・雑誌を読む	イベント等を紹介する記事を読んでみる	60分
3回	新聞・雑誌を読む	服飾に関連する記事を読んでみる	60分
4回	実用文を読む	日常生活に関わる説明を読んでみる	60分
5回	実用文を読む	通信販売等に関する説明を読んでみる	60分
6回	文芸作品を読む	語彙を増やすための勉強をする	60分
7回	文芸作品を読む	語彙を増やすための勉強をする	60分
8回	新聞・雑誌を読む	ニュースを読んでみる	60分
9回	新聞・雑誌を読む	社説を読んでみる	60分
10回	日本文化に親しむ（言葉遊び・文字遊び）	お祭りやイベントなどに行ってみる	60分
11回	日本文化に親しむ（言葉遊び・文字遊び）	お祭りやイベントなどに行ったみる	60分
12回	レポート・ポートフォリオを作成する（日本文化を紹介する）	興味を持った分野の資料を収集する	60分
13回	レポート・ポートフォリオを作成する	資料を収集し分類する	60分
14回	レポート・ポートフォリオを作成する	資料を収集し考察を深める	60分
15回	まとめ	ひきつづき日本語力を高めるように勉強する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回ごとに課題を添削します

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	20%

■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

■参考文献

必要に応じて指示する

■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する
文章表現研究室（研究棟1階）

■備考 特になし

日本語 I

伊藤 高広

3年 前期 選択 留学生対象 (4単位 講義)

■授業の方針・概要

大学で学ぶために必要な日本語力を習得する。日本語 I では聞く活動を中心にした授業を行うが、書く、読む、話すなどの活動も行い総合的な日本語能力の向上を目指す。

■到達目標 (学修成果)

講義や研究発表などを聞く力を養成する。聞いたことをまとめ、要約が書けるようになる。資料を見て必要な情報が短時間で得られるようになる。内容について自分の経験や意見を述べるができるようになる。大学で学ぶための語彙を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の中の外国語選択必修科目です。この科目は留学生対象のクラスで卒業認定科目です。教養科目の日本語は国際人としての能力を養い、幅広い教養を身につけ豊かな感性、表現力を涵養することを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス (自己紹介、授業内容の説明)	語彙レッスン1の漢字の読み、意味の確認	60分
2回	内容を聞き大意、概要を聞き取る。語彙レッスン1の解説、問題。	語彙レッスン2の漢字の読み、意味の確認	60分
3回	内容を聞き大意、概要を聞き取る。語彙レッスン2の解説、問題。語彙レッスン1まとめ。	語彙レッスン3の漢字の読み、意味の確認	60分
4回	未習語を全体から類推して内容を聞き取る。語彙レッスン3の解説、問題。語彙レッスン2まとめ。	語彙レッスン4の漢字の読み、意味の確認	60分
5回	未習語を全体から類推して内容を聞き取る。語彙レッスン4の解説、問題。語彙レッスン3まとめ。	語彙レッスン5の漢字の読み、意味の確認	60分
6回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン5の解説、問題。語彙レッスン4まとめ。	語彙レッスン6の漢字の読み、意味の確認	60分
7回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン6の解説、問題。語彙レッスン5まとめ。	語彙レッスン7の漢字の読み、意味の確認	60分
8回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン7の解説、問題。語彙レッスン6まとめ。	語彙レッスン8の漢字の読み、意味の確認	60分
9回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン8の解説、問題。語彙レッスン7まとめ。	語彙レッスン9の漢字の読み、意味の確認	60分
10回	定義を聞き取る。語彙レッスン9の解説、問題。語彙レッスン8まとめ。	語彙レッスン10の漢字の読み、意味の確認	60分
11回	接続表現から内容の展開を意識しながら聞き取る。語彙レッスン10の解説、問題。語彙レッスン9まとめ。	語彙レッスン11の漢字の読み、意味の確認	60分
12回	説明を聞き取る。語彙レッスン11の解説、問題。語彙レッスン10まとめ。	語彙レッスン12の漢字の読み、意味の確認	60分
13回	説明の部分と意見の部分に分けて聞き取る。語彙レッスン12の解説、問題。語彙レッスン11まとめ。	語彙レッスン13の漢字の読み、意味の確認	60分
14回	説明の部分と意見の部分に分けて聞き取る。語彙レッスン13の解説、問題。語彙レッスン12まとめ。	語彙レッスン14の漢字の読み、意味の確認	60分
15回	例と問題提起の部分とを区別して聞き取る。語彙レッスン14の解説、問題。語彙レッスン13まとめ。	語彙レッスン15の漢字の読み、意味の確認	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

通常の授業内で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	40%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて配布します。

■参考文献

必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

授業開始時に曜日、時間を伝えます。第3校舎講師控え室 (第3校舎1階)

■備考

準備学修を課題として提出してください。練習作文を課題とすることがあります。

日本語Ⅱ

伊藤 高広

3年 後期 選択 留学生対象 (4単位 講義)

■授業の方針・概要

日本語Ⅰに引き続き、大学で学ぶために必要な日本語力を習得する。日本語Ⅱではレポートや論文を書くために必要な文章表現の技術の向上を目指す。文章表現に必要な語彙力や文型、読解力の養成も合わせて行う。

■到達目標（学修成果）

話し言葉と書き言葉を使い分けることができる、レポートや論文に合う文体、文型、語彙を使って文章を書くことができる、文章の構成を考えて文章を書けるようになるなどレポートや論文を書くための日本語力を習得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の中の外国語選択必修科目です。この科目は留学生対象のクラスで卒業認定科目です。教養科目の日本語は国際人としての能力を養い、幅広い教養を身につけ豊かな感性、表現力を涵養することを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	原稿用紙の使い方、表記のしかた 語彙レッスン15の解説、問題。語彙レッスン14まとめ。	語彙レッスン16の漢字の読み、意味の確認	60分
2回	簡潔な文で質問に答える文章が書けるようにする。 語彙レッスン16の解説、問題。語彙レッスン15まとめ。	語彙レッスン17の漢字の読み、意味の確認	60分
3回	読み取った情報を伝える文が書けるようにする。 語彙レッスン17の解説、問題。語彙レッスン16まとめ。	語彙レッスン18の漢字の読み、意味の確認	60分
4回	状況を説明し、意見を述べる文章が書けるようにする。 語彙レッスン18の解説、問題。語彙レッスン17まとめ。	語彙レッスン19の漢字の読み、意味の確認	60分
5回	段落のある文章が書けるようにする。 語彙レッスン19の解説、問題。語彙レッスン18まとめ。	語彙レッスン20の漢字の読み、意味の確認	60分
6回	体験したことを報告する文が書けるようにする。 語彙レッスン20の解説、問題。語彙レッスン19まとめ。	語彙復習問題（レッスン1～5）	60分
7回	テーマに沿った意見文を書けるようにする。 語彙レッスン20まとめ。	語彙復習問題（レッスン6～10）	60分
8回	テーマに沿った意見文を書けるようにする。 語彙レッスン1～5まとめ。	語彙復習問題（レッスン11～15）	60分
9回	自己紹介文が書けるようにする。 語彙レッスン6～10まとめ。	語彙復習問題（レッスン6～20）	60分
10回	自己紹介文が書けるようにする。 語彙レッスン11～15まとめ。	文型練習問題	60分
11回	要約文が書けるようにする。 語彙レッスン16～20まとめ。	文型練習問題	60分
12回	要約文をかけるようにする。	文型練習問題	60分
13回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分
14回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分
15回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

通常の授業内で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて配布します。

■参考文献

必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

授業開始時に曜日、時間を伝えます。第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

■備考

準備学修を課題として提出してください。練習作文を課題とすることがあります。

博物館展示論

横山 昭一

3年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

展示は博物館への導入であると同時に、博物館の顔ともいえ、その良し悪しが集客力に大きくかかわってきます。今まで来館者として見ていた「博物館展示」を、学芸員の立場で創造していく皆さんに、長年地域博物館に学芸員として携わってきた実務経験を活かして、博物館展示の意義や歴史、実際の事例等を総合的に講義します。一人でも多くの観覧者を集客し、少しでも長く館に滞留して、興味や好奇心を起こさせる展示の開発や運営ができる学芸員の育成を目指します。

■到達目標（学修成果）

- ①博物館における展示の歴史、展示の諸形態から教育活動、展示メディアに関する理論や方法に関する知識・技術が習得できる。
- ②ユニバーサルデザインの考え方や展示評価を学び、照明理論やディスプレイ等の今日的課題を主体的に考えることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。博物館学芸員資格取得のための学芸員課程必修科目です。学芸員として必要な展示に関する理論や実践方法を学びながら、社会人としての幅広く深い教養と総合的な判断力の向上をめざします。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	博物館展示論のガイダンス ・展示に関するアンケート実施。 「あなたが考える良い博物館像」を各自発表。	予習:シラバスを読む。機会あるごとに多くの博物館施設の展示を見ておく。	60分
2回	展示の原則・理念 展示の基本要素、展示の原則を広義の展示を交えて学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
3回	展示の種類 博物館展示の命題や要件、博物館展示の種類を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
4回	展示と展示論の歴史 博物館展示論の研究の歴史を学ぶ。 小テスト	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
5回	常設展示と企画展示 館種や設置目的によって異なる展示の特徴を学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
6回	展示業務の実際—構想から施工まで— 計画設計、実施設計の流れと各段階での業務を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
7回	展示室の構成Ⅰ 環境・空調・動線・照明・音響・セキュリティ 動線計画や照明を中心に学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
8回	展示室の構成Ⅱ サイン・展示ケース・演示具 展示ケースの役割・種類、メンテナンスについて学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
9回	展示の技法Ⅰ 映像・インタラクティブ展示、ハンズオン展示 映像展示の特徴やハンズオン展示の実際を学ぶ。 小テスト	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
10回	展示の技法Ⅱ 展示グラフィック・解説文・展示図録 展示パネルの種類や解説文、図録作成のプロセスを学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
11回	展示の技法Ⅲ ワークシート・ワークブック・教育プログラム 教育プログラムの実例を通して利活用のあり方を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
12回	展示の技法Ⅳ ユニバーサルデザイン・展示評価 ユニバーサルデザインの考え方、展示評価の目的を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
13回	博物館展示の情報化と広報活動 小テスト 展示解説の方法、他言語表記、広報活動のあり方を学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	30分
14回	博物館展示の実際（施設見学） 見学や学芸員との質疑を通して館の課題を知り評価を行う。 ・見学レポート作成	予習:事前案内や配付資料を読み返す。 見学レポートをまとめる。	60分
15回	まとめ 授業や施設見学の課題（試験やレポート等）のフィードバックを行い、これからの展示について討議する。	復習:試験問題を振り返る。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業の冒頭に前回の振り返り、終わりに感想や質問内容をメモで提出。各小テスト・レポート提出後の講義で内容解説を行なう。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	①レポート ②小テスト ③授業姿勢（欠席・遅刻も含む）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし 課題内容に即した資料プリントを配布します。

■参考文献

加藤有次他編 「新編博物館学講座9 博物館展示論」 雄山閣
青木豊著 「博物館展示の研究」 雄山閣

■オフィスアワー・研究室

講義日の講義終了後、第三校舎講師控室(第3校舎1階)、もしくは教務課(本校舎1階)を通じて連絡をしてください。

■備考

なし

博物館教育論

浪川 幹夫

3年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館法の基本法が社会教育法であるところから、博物館における教育は博物館の総体であると考えなければならない。したがって、博物館の基本機能は、すべて博物館教育を目的としている。つまり、収集・保存・研究は展示と教育を目的としているので、博物館教育論は博物館の最終機能となる。

展示は博物館教育の基本であるが、展示論は別途科目として存在するため、ここでは展示及び展示関連事業を基本とした教育諸活動に焦点をあてて理解を求める。

■到達目標（学修成果）

- ・博物館教育活動の歴史と概念の理解
- ・博物館における教育諸活動の具体的実践

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき博物館に関する科目の単位の一つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス 自己紹介（学生も） 鎌倉の博物館紹介 授業の進め方	予習：シラバス（学芸員課程部分）をよく確認する	30分
2回	博物館法および関係法規から見る博物館教育（講義・前半）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
3回	博物館法および関係法規から見る博物館教育（講義・後半）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
4回	博物館教育の概念と歴史・教育論研究史（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
5回	博物館教育の具体例Ⅰ ミュージアムワークシート・ミュージアムワークショップ（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
6回	博物館教育の具体例Ⅱ 講演会・講座・出前授業・各種ワークショップ（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
7回	杉野学園衣裳博物館を見学（博物館教育論の視点から）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
8回	展示資料の取り扱いと、展示手法について（博物館教育論の観点から・実技）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
9回	博物館教育論の観点から行う、資料の研究手法（実技。古文書読解）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
10回	ミュージアムワークシートの作成 概念説明（講義と、対象博物館選定・実技）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り（ワークシート作成準備）	30分
11回	ミュージアムワークシートの作成（実技）	復習：ワークシートの作成	30分
12回	ミュージアムワークシートの作成（実技）	復習：ワークシートの作成	30分
13回	ミュージアムワークシートの作成（実技）および教育用としての展覧会図録の作成について（講義）	復習：ワークシートの作成および配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
14回	博学連携 出前授業（講義と実技） （博物館の裏側について。出前授業の実例紹介）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
15回	まとめ（成果物の提出と評価）	復習：14回全体の振り返り	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートの添削返却

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

随時 紹介する。
レジュメ等、資料を配付する（随時）。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：第3校舎講師控え室（第3校舎1階） 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考

なし

博物館情報・メディア論

丸山 憲子

3年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館を「情報」「メディア」という語をキーワードに学んでいく。「情報」「メディア」という用語の理解の上、実際の今日の博物館での資料の情報化他「情報」の諸相、「情報」の伝達手段としての「メディア」の実際について学習していく。

■到達目標（学修成果）

博物館における「情報」「メディア」についての基本的知識の習得
博物館活動における「情報」の本質について考察できることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得するとともに得られる資格）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき科目の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館情報・メディア論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	コレクション・ドキュメンテーション（1）について学習する。	予習：教科書の情報メディア論の部分を読んでおくこと。 復習：語句を整理しておくこと。	30分
3回	コレクション・ドキュメンテーション（2）について学習する。	復習：語句を整理しておくこと、コレクションドキュメンテーションについてまとめておくこと。	60分
4回	データベース化、デジタル・アーカイブについて学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句を整理しておくこと。デジタルアーカイブのまとめをしておくこと。	60分
5回	博物館における情報管理と情報発信について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
6回	インターネットを利用した他機関との連携について学習する。	予習：インターネット上で博物館データベースを閲覧しておくこと。 復習：配布資料の読み返し。	30分
7回	博物館における知的財産権について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
8回	RFIDなどの新技術と博物館活動について学習する。 資料の情報化・情報管理・情報発信についてのまとめ（小テスト）	復習：配布資料の読み返し。	30分
9回	メディアとしての博物館について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
10回	博物館における視聴覚メディアの歴史を学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
11回	教育普及活動における情報伝達の方法について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。 博物館へのフィールドワーク。博物館での情報伝達の実態を見学、ディスカッション準備。	60分
12回	情報伝達についてのディスカッション。 映像について学習する。	復習：ディスカッション整理。	30分
13回	博物館における映像展示をはじめとした視聴覚メディアについて学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
14回	博物館における視聴覚メディアの導入及びその効果について学習する。	復習：視聴覚メディアについてのまとめをしておくこと。	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献

随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表及びコメント書き込みをしてもらいます。

VIII. ゼミナール

先生方のご好意により開講されるゼミです。
単位は出ませんが、積極的に参加して学んで下さい。

【整理番号】

【1】 瀧川ゼミ

瀧川ゼミ

瀧川 美佐子

2・3年 前期又は後期 自主ゼミ (演習)

■授業の方針・概要

自分の興味や関心からスタートし、例えば「好き (かわいい、かっこいいなど)」を形にするための技術を一緒に研究するゼミです。

二次元と三次元とを行ったり来たりしながら、魅力を感じるディテールやパーツを実際に「つくってみる」「観察する」を繰り返し、イメージする「形」を構成する力を養っていきます。ゼミでは服飾造形基礎Ⅰ、Ⅱで学んだことを発展させると共に、具体的な「形」を客観的、多角的に表現する力を高めていくことを目標とします。履修者の能力、希望に合わせて内容の変更もあります。

■到達目標 (学修成果)

1. イメージを具現化する発想力、応用力を養う。
2. パターン展開、立体構成の基本的な技術を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

自主ゼミであり、卒業要件科目ではないが、服飾における構成力の習得と応用能力を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション ・ゼミについて	課題：制作ノートの準備 復習：課題案のアイデア収集	30分
2回	各自課題の設定 個別ディスカッション 製図説明	予習：課題について資料収集	60分
3回	・ディテールのバリエーション①フリル 各自製図	予習：フリルのリサーチ PATTERN MAKING などを確認する	30分
4回	各自製図	予習：作業を進める	30分
5回	・ディテールのバリエーション②プリーツ、リボン トワルについて (裁断、組立)	課題：制作ノート提出 予習：プリーツ、リボンのリサーチ	60分
6回	トワル仮縫いについて (仮縫い、補正、修正)	予習：作業を進める	30分
7回	・ディテールのバリエーション③袖-① 型紙作り 実物裁断 (印入れ)	予習：作業を進める 袖のリサーチ	60分
8回	・ディテールのバリエーション④袖-② 縫製手順について (制作マップ) 実物組立	予習：作業を進める	30分
9回	実物仮縫い 補正、製図修正 型紙修正 (生地修正)	課題：制作ノート提出 予習：作業を進める	60分
10回	・ディテールのバリエーション⑤襟-① 制作①	予習：作業を進める 襟のリサーチ	60分
11回	・ディテールのバリエーション⑥襟-② 制作②	予習：作業を進める	30分
12回	制作③	予習：作業を進める	30分
13回	・ディテールのバリエーション⑦トリミング 制作④	予習：トリミングのリサーチ 作業を進める	30分
14回	制作⑤ (作品完成)	課題：制作ノート提出 予習：作業を進める	60分
15回	まとめ プレゼンテーション	予習：プレゼンテーション準備	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

ディスカッションと制作ノート、課題の講評によって、随時フィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

成績評価はしない

■教科書

授業の進行に合わせて必要な場合、提示、プリント配布する

■参考文献

授業時に紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー曜日、時間、研究室は授業内で指示する

■備考

授業の曜日、時間は未定である。オリエンテーション期間中に履修希望者と相談の上決定する